

実証事業実施12市町の 成果報告

グループA

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県 倉敷市

自治体名：岡山県倉敷市

担当課名：保健体育課

電話番号：086-426-3835

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	356.07 km ²
人口	471,742 人
公立中学校数	27 校
公立中学校生徒数	12,865 人
部活動数 (運動部活動のみ)	約380部活
地域クラブ活動数	1クラブ (全体数は把握できていない)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

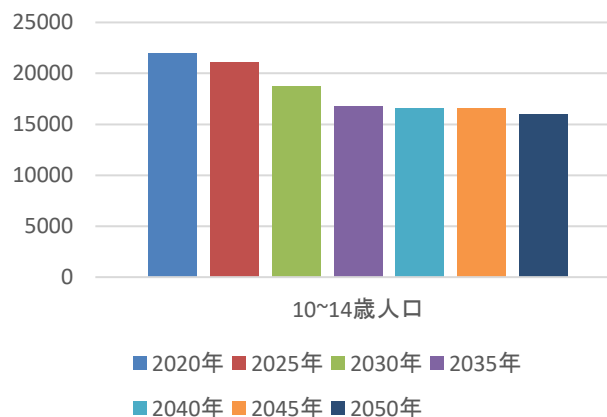
倉敷市は、昭和42年に旧倉敷市・児島市・玉島市が合併して誕生し、その後、昭和46～47年に庄村・茶屋町、平成17年8月には船穂町・真備町を合併した。これにより東瀬戸内圏の拠点都市として発展を続けており、県内では岡山市に次ぐ規模の市となっている。

市内には、公立中学校が27校あり、在籍生徒数は12,865名（令和7年5月現在）である。しかし、全体として生徒数は減少傾向にあり、特に沿岸部や真備地区など一部地域では、急激な減少が見られる学校も存在する。

小学生を対象としたスポーツ団体等は数多く存在し、さまざまな競技に取り組める環境は比較的整っている。一方、中学生を受け入れて継続的に活動できる団体は極めて少ない。部活動においても、単独校では成り立たず、合同チームを編成して活動する学校や種目が増加しているのが現状である。

部活動の地域連携・地域展開を進めていく上でも、受け皿となる団体の発掘や新規立ち上げが必要となり、合わせて指導者の確保も大きな課題と考えている。

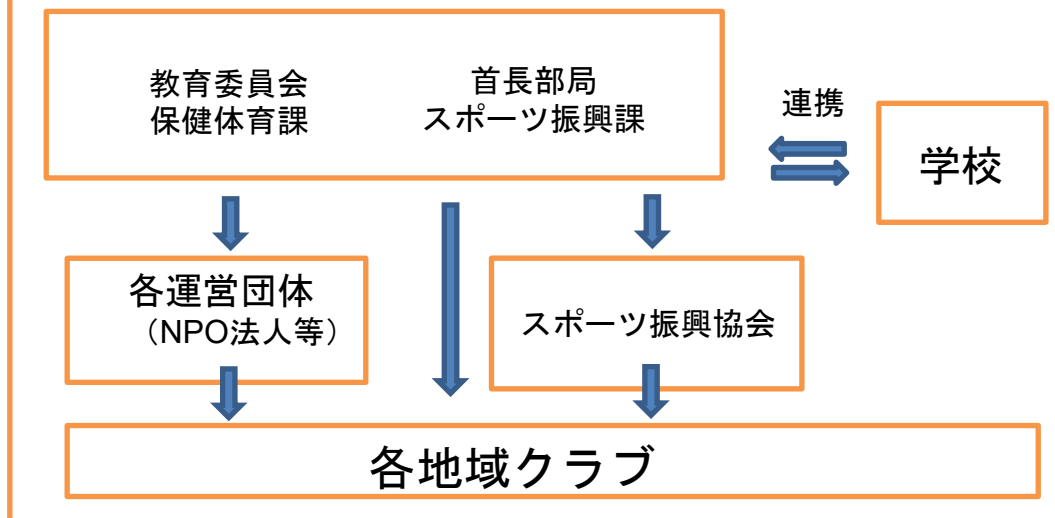
倉敷市人口推移〈10~14歳〉



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（保健体育課）

- ・倉敷モデル（今後の施策とスケジュール）の作成
- ・兼職兼業の制度の確立
- ・部活動の現状把握と部活動改革
- ・地域連携からのクラブ化のサポート

◎首長部局（スポーツ振興課・文化振興課）

- ・倉敷モデル（今後の施策とスケジュール）の作成
- ・スポーツ推進委員やスポーツ振興協会との連携
- ・新しい地域クラブや指導者の発掘
- ・新規クラブチームに対する補助金の検討
- ・既存のクラブの現状把握と連携
- ・受益者負担や困窮家庭への補助などについての検討

年間の事業スケジュール

- | | |
|------------------|---|
| 令和7年4月 | 倉敷クラブ
障がい者野球・社会人野球との交流 |
| 令和7年5月 | 倉敷クラブ大会出場（岡山県予選） |
| 令和7年7月 | 倉敷クラブ大会出場（中国予選）
スポーツ振興協会加盟団体
第1回アンケートの実施 |
| 令和7年8月 | 第1回部活動地域移行検討準備会
倉敷クラブ総会
倉敷クラブ3年生アンケート |
| 令和7年10月
～8年2月 | 倉敷クラブ高校施設の利用 |
| 令和7年12月 | 中体連専門部アンケートの実施
（3月×切）
倉敷クラブ1・2年生アンケート
倉敷クラブ小学生との交流 |
| 令和8年1月 | 新入生と在校生へチラシの配布
（部活動地域展開について） |

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数	1クラブ		
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1クラブ（26部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
倉敷クラブ	任意団体	野球	・平日 年に数回 ・休日 月2~3回	8時~12時	3年56人 2年49人 1年61人	R7.4月~ R8.2月	28人	4人 (内、兼務4人)	25,000円 /年額 (など)	中体連：不参加 その他：地域クラブ



③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

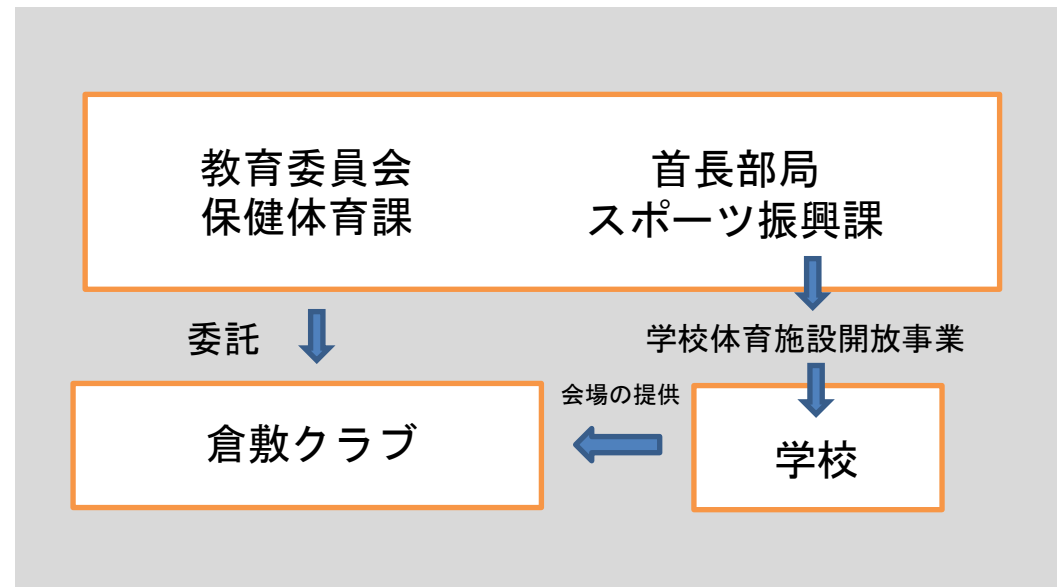
2.実証内容と成果

主な取組例

●倉敷クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	倉敷クラブ
期間と日数	4月～2月 月に2～3回（合計30回）程度
指導者の主な属性	現職教員、元教員（柔道整復師） 倉敷クラブOB
活動場所	公立中学校グラウンド ・高校グラウンド・市内野球場
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	年間25,000円 （1回あたり800円程度）
1人あたりの保険料	スponsル補償 生徒1人あたり：750円/年 指導者1人あたり：1,700円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
役割：学校長に対して、部活動に支障のない範囲で学校施設の利用許可を
いただくよう調整を行う
- 運営スタッフ（指導スタッフ兼務4名）
役割：日程調整・会場手配・詳細連絡・入団手続き・大会エントリー・会計等を行う
- 指導スタッフ 28名
役割：選手指導・審判業務・カギの施錠や道具運搬等の運営補佐を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○部活動地域移行検討準備会を実施し、学校、関係団体等の意見を聞き取りながら、地域の実情に合った地域展開を目指していく。

○野球部の選手および顧問から有志を募り、軟式野球クラブを運営する。

- ・学校との連携がとれた地域クラブ運営を目指す。
- ・楽しさを伝えるだけでなく、技術向上もできる体制づくりを構築する。
- ・連絡アプリを導入し、チーム運営の負担軽減を図る。
- ・トレーナーを配置し、けが防止等中学生の身体的負担に配慮した活動を目指す。

取組の成果

○7月末に部活動地域移行検討準備会を開催し、学校や関係団体等の意見を聴取するとともに、県の地域移行支援アドバイザーからの助言を参考に、新たな地域クラブとしてスタートするための課題や方針案について協議を行うことができた。

○現在は学校の部活動と併用した形で進めている段階であり、クラブについても教員が運営を担っているが、会計業務等（特に教員の兼職支払い業務）において負担が大きいことが明らかとなり、チーム会計等を担う運営団体（ガバナンス組織）の必要性を感じた。

- ・学校施設を利用する際に、学校と連携・調整することができた。

・活動を充実させるためには、指導者の確保が重要である。

（選手の6～7人に対して指導者1人の確保したい）

・連絡アプリは必要で、予算と安全性、使いやすさのバランスで決定する必要がある。

・安全面等を考慮し、トレーナーの配置は非常に有効である。

今後の取組における課題

○持続可能となるためには、運営団体をどうしていくかが大きな課題である。新規も合わせて倉敷市に4つある総合型地域スポーツクラブとの連携や企業との連携が課題と考える。

課題への対応方針

○各競技で受け皿となりうる地域クラブ（実施主体）の発掘や立ち上げを進めていきたい。既存の地域クラブだけでなく、新規クラブの立ち上げや今ある部活動を地区別にまとめていき、地域クラブへと変化させていく方針で検討している。

○運営団体の必要性を感じているため、倉敷市に既存の総合型地域スポーツクラブや民間企業・法人格のある団体等の組織と連携できる体制づくりを進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

○倉敷市教育委員会保健体育課がコーディネーター役を担い、学校施設の調整や駐車場の確保を行ったが、ほとんどは実施主体（倉敷クラブ）の運営スタッフでコーディネートしている。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

○参加者の出欠、連絡アプリ等の活用を行った。安全性を重視し、民間の有料アプリを使用した。安全性は担保されたが、出欠連絡の徹底と把握、連絡が煩雑になること等、使用する上で課題が見つかった。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

○チームトレーナー（柔道整復師）による動作教室は平日の夜間に行い、自由参加とした。参加する選手は一部であったが、中学生にとっては大切な体づくりの基盤となる取組となった。また、練習では、けがをしている選手へのストレッチやトレーニングなど、専門的なケアを行った。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

○活動中の事故等の対応を含め管理責任の主体について実施主体のクラブ規約内に記した。実際に活動内のケガや賠償については保険申請する件もあった。

○事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡調整について、指導者間で共有した。

1 部活アプリ / クラブマネージャー

部活動改善6つの支援サービス 部活アプリ 地域クラブポータル 人材バンク 研修動画 施設管理 特設ホームページ

クラブ管理に必要な機能がこれひとつで完結！



全国1,000校以上の導入実績がある「部活アプリ」は部活動地域移行においても、生徒・保護者・地域クラブ、自治体間のあらゆるコミュニケーションをサポートします。

メンバー管理



指導者管理



Copyright (c) ASFEEL Inc. All R

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 今後の地域指導者として、指導者にはコーチ資格の取得を推奨する。
- 県が主催する指導者研修会等の案内を行い、指導者の質の向上を目指す。
- 部活動指導員の確保や研修を通して、地域クラブ活動の指導者になりえる人材を増やす。
- 市内の教員に今後兼職兼業をかけて地域クラブの指導者として従事する意向があるかどうかを調査する。（今年度は実施できず来年度中に予定）
- 倉敷クラブ指導者に対して、今後も兼職兼業をかけて倉敷クラブの指導者として従事する意向があるかどうかを調査する。
- 野球関係者の研修会に参加する。

取組の成果

- 来年度、スポーツ振興課で、人材バンクの活用をスタートする予定となっている。
- 倉敷クラブでは、多くのスタッフが、今後も倉敷クラブの指導者として従事する意向があることがわかった。
- 研修会は、より専門性の高まる内容で、選手を指導する際の、視野・視点が広がった。

今後の取組における課題

- 指導者も本業が忙しいため、時間をとることができず、指導者の資格取得率が伸びない。
- 部活動指導員については、副業が禁止されている企業が多いため、働き盛りの若い人員を獲得しにくい現状がある。部活動指導員の多くは引退した教員や地域指導者等であり、子どもたちをサポートしたい気持ちはあるが、今後クラブを自分で運営していくとなるとハードルが高い。

課題への対応方針

- 教員・部活動指導員の希望者を指導者の軸として考え、競技別・地区別で足らずの指導者確保に向けて確保する必要があると考えている。
- 指導者資格の取得や県主催の指導者研修を受講することが望ましいと働きかけ、資格取得の金銭的負担については市の助成を活用する方向で検討している。
- 倉敷クラブとしては、今後は4～5地区に区切ってチームを分ける方向を検討している。地域（地元住民）の人材を教員以外で見つけ、協力しながら一緒に指導していくことができるスタイルを築いていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

○教員に対しての意識調査アンケートの実施を行い、将来部活動に代わって地域クラブの指導者として従事する希望がどのくらいあるか把握する。（今年度実施できず来年度実施予定）

○トレーナーやマネージャー・見守り業務のできる人材の配置を考え、保護者の負担を減らすことを考える。安全に活動でき、緊急対応（応急処置の研修等）ができる体制づくりを検討する。

指導者研修の内容

研修名	野球の考え方（指導者向け）
講師	高校野球指導者
研修内容	・指導アプローチ ・高校野球での取組 ・選手のタイプ別見分け方 ・練習方法 等

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

高校野球関係者の方の話が聞いたことで、中学校のカテゴリーでどのようなことにポイントをおいて伝えていくべきかがわかった。また、練習方法もたくさん教えていただき、指導者としての引き出しが増えたことはとてもよかった。

参加者②

選手のタイプを知ることで、相手にどんな攻め方ができるかなど、考え方の幅を広げられたような気がする。早速、練習試合等でも試してみたいと思った。

参加者③

専門的な指導の勉強にはなったが、これから地域クラブを運営していくためのノウハウ等、そちらの観点での話が聞きたいと思った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 今後の地域指導者として、指導者にはコーチ資格の取得を推奨する。
- 県が主催する指導者研修会等の案内を行い、指導者の質の向上を目指す。
- 部活動指導員の確保や研修を通して、地域クラブ活動の指導者になりえる人材を増やす。

倉敷クラブ指導者総数	28人
審判資格取得者数	10人
本年度コーチ資格を取得した指導者	2人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 現在、平日は各校で部活動が行われているため、活動することはほとんどなかった。夏休みの暑い時期には平日の夜間に市のスポーツ施設を利用して活動した。夏休みの数回のみだったため、出席率は非常によかった。
- 倉敷市の広域で集めると保護者送迎を余儀なくされるので、平日については、より自転車で通える距離での活動場所の確保が求められると感じた。
- 多くの指導スタッフが中学校の野球部の顧問のため、平日の部活動と休日のクラブ活動との日程調整や子どもの身体のケア・特に大会シーズンへの負担への配慮（球数制限等）については、十分に対策を行うことができた。



夏休みの平日夜間練習

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○昨年度に引き続き、倉敷市スポーツ振興協会の意見交換会に参加し、現状の国の方針等の説明を行った。また、「中学生を受け入れ可能な団体があるか」「指導したい方はいるか」等のアンケートを依頼した。

○県内の高校と連携し、施設を利用させてもらった。

○学童少年野球やソフトボール少年団と連携し、小学生との交流試合や体験会を開催した。

取組の成果

○協会に加盟する既存の団体に、中学生の受け皿となる団体は不足していることがわかった。ただ、多くの団体に、地域で中学生を育てていく環境について考えてもらうことができた。

○地域の人材はまだ隠れていると思うが、協会に加盟している方の多くは、自分たちが楽しむために行っている、または小学生等をすでに指導しており、中学生まで広げることが困難と考えている方が多いことがわかった。

○倉敷クラブ（野球競技）としては、高校生と交流したいが、高校生との合同練習や練習試合等は規定上できない。高校の施設を利用させてもらうことで、進路選択の一つの材料にもなり、また、整った施設をお借りでき、普段できない練習にも取り組むことができた。

○小学生と交流試合を通して、地域クラブとしての役割等を保護者にも理解してもらった。また、体験会を開催し、中学生にとってもよい経験になった。



小学生との交流試合

今後の取組における課題

○中学生の受け皿となる団体は現時点で非常に不足している。また、今後中学生を受け入れることができる団体もわずしかおらず、既存の団体だけでは中学生の受け皿として十分な数とは言えない状況である。

課題への対応方針

- 既存のクラブへの働きかけと同時に、新規立ち上げクラブを支援する。
- 部活動を地区ごとに編成し、各地区に各種目のクラブが1団体以上が存在するような施策を行えるか検討する。
- スポーツ振興協会との連携だけでなく、企業等にも視野を広げ、発信していく必要があると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

○特に何もできていない。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

○スポーツ推進委員に検討準備会の一員として参加してもらい、推進委員が地域クラブの指導者や指導者の紹介（斡旋）の役割ができないか検討中である。

まちづくりと連携した取組

○部活動の地域展開、実証事業の経緯を説明し、駐車場の狭い学校施設での活動日には、近隣の商業施設や個人病院、市の施設、県立学校等の駐車場を借りた。今後、学校施設を利用する際の駐車場問題等は大きな課題になる可能性があり、地域との連携が重要になってくるかもしれない。

部活動の地域移行についての検討準備会

日 時：令和7年8月7日（木）13：30～15：30
場 所：倉敷市役所 9階 教育委員室

1 開 会

2 情報共有及び協議

(1) 国の方針と倉敷市の現状について

○最終とりまとめの説明

- ・主目的：急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実すること
- ・地域移行 ⇒ 地域展開
- ・「休日については、令和13年までに、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す」
- ・地域クラブ活動とは？ 費用負担の在り方は？ 学習指導要領での取り扱いは？

○進め方

- ・募集方式
ブロック方式
部活動指導員方式

○国が示す課題について【協議】

1. 地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等

2. 指導者等の質の保証・量

3. 活動場所

4. 活動場所への移動手段

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 地元企業に対し、寄付等の支援を依頼する。
- チラシ等を活用した広報活動を行い、事業内容の認知向上に努める。
- 他市町村との連携による取組の可能性について検討を行う。

取組の成果

○広告としてSNS（インスタグラム）で発信するなど、多くの方に知っていただく方法を模索した。SNSを使った投稿等については、一定の宣伝効果があることがわかった。また、ホームページ制作等も考えたが、その管理や更新にはも専門的な知識が必要であるため、現段階では実現に至らなかった。

今後の取組における課題

○国・県・市による補助制度の内容が明確になった後、どの程度まで地元企業と連携を図っていくかについて、具体的に検討する必要がある。

課題への対応方針

○今後は、企業からの寄付金の募集や、企業自体に運営団体として参画してもらするなど、地元企業を巻き込んだ取組を進めていく必要があると考えている。

倉敷市中学生軟式野球チーム 「倉敷クラブ」選手募集



対象者：中学1年生～中学3年生

倉敷市内の中学校・早島中学校の野球部員（今年度から船穂・真備地区も対象）

活動日：原則日曜日（月2～3回程度、部活動の休業日に活動）

活動場所：倉敷市内の中学校・野球場中心（現地集合・現地解散）

目標：全日本少年野球大会in横浜スタジアム「全国優勝!!」

主な戦績：2016全日本準優勝 2018全日本3位 2019全日本優勝

2024・2025中国大会出場



☆希望制のクラブチームとし、年間を通じた活動へと形を変えました。（2024年9月～）

【現在、選手110名（新3年生49名・新2年生61名）、指導スタッフ26名】

☆複数会場を確保し、学年別や習熟度別に分かれて活動することが多いです。

☆毎週ではありませんが、土曜日は「中学校の野球部」、日曜日は「倉敷クラブ」のイメージです。

定期的に練習や試合を行い、多くの仲間と競い合い、刺激し合ってレベルアップを目指します。

4月には大会メンバーとして25名を登録し、チームの代表として全国優勝を目指します。

☆原則、保護者当番等はありませんが、活動場所までの交通手段については保護者の責任でお願いします。

<6年生体験会のお知らせ>

- 12月28日（日）玉島東中学校
- 1月18日（日）連島南中学校
- 1月25日（日）倉敷北中学校
- 2月8日（日）連島南中学校

★集合8：00 解散11：00

※野球ができる服装（防寒対策）で、グローブ・水分を持参してください。

※けががあった時には各自（チーム）の保険で対応をお願いします。

※緊急時の対応のため、保護者及びチーム代表者1名以上の引率をお願いします。

※事前に変更等あれば公式Instagramにアップしますのでご確認ください。

※当日の雨天中止等の確認は代表ケータイまでご連絡ください。



倉敷クラブ公式
Instagram



@KURASHIKI_CLUB

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

○市外では唯一、早島町の野球部員も対象としているが、今年度は参加者がいなかった。

指導者については、早島町の部活動指導員と倉敷クラブのスタッフを兼ねている方がいる。（1名）

○県中体連野球部の強化事業として長年にわたり、地区選抜制度を実施していた経緯がある。同制度においては、倉敷市内でも船穂・真備地区が総社クラブ（総社市の選抜チーム）の対象となっていた。今年度はその制度を見直し、選手の希望に応じてどちらのクラブにも参加できる仕組みへと調整を行った。今後についても、近隣地区との連携は引き続き必要であると考えている。



学校別人数(倉敷クラブ)

	1年	2年	3年
東	1	0	1
西	8	7	6
南	7	7	2
北	4	6	1
多津美	2	4	6
新田	1	3	2
東陽	6	1	2
庄	3	6	3
倉敷第一	7	3	2
福田	0	1	1
福田南	0	4	1
水島	2	1	1
連島	0	0	1
連島南	7	0	6
味野	0	0	3
下津井	0	0	0
児島	0	1	1
琴浦	6	0	5
郷内	0	1	0
玉島東	2	2	4
玉島西	1	2	2
玉島北	3	0	4
黒崎	0	0	1
船穂	1	0	0
真備東	0	0	0
真備	0	0	0
倉敷天城	0	0	1
早島	0	0	0
合計	61	49	56

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- チームトレーナーの配置。
- 専門的な練習と強化を目指した年間スケジュールの計画と実施。
- 障がい者チームおよび社会人チームとの交流。

取組の成果

- チームトレーナー（柔道整復師）による動作教室を平日の夜間に行った。参加する選手は一部であったが、中学生にとっては大切な体づくりの基盤となる取組となった。
- 障がい者軟式野球チーム「岡山桃太郎」と交流試合を行った。障がいのある選手のプレーに触れ、ハンデがあっても競技を楽しむ姿から多くの学びを得ることができ、人としての成長につながる貴重な経験となった。（2試合・・・1勝1敗）
- 社会人野球チーム「イーグル会」と交流試合をした。相手は野球経験が豊富でレベルの高い選手が多く、試合を通じて刺激を受けた。また、試合後のミーティングでは多くの助言を受け、特に社会人ならではの声のけや盛り上げ方を学ぶことで、チーム力の向上につながった。（1試合・・・1敗）



トレーナーによる動作教室

今後の取組における課題

- 内容を充実させるためには、指導者の質だけでなく、施設環境や道具・器具などの整備も一定水準を満たす必要がある。年間を通じた段階的な指導計画や仕組みに加え、トレーナー・指導者を安定的に確保するための資金面の充実も大きな課題である。
- 指導者への謝金が発生する場合には、それに見合った内容の充実、すなわち質の高い取組強く求められる。特に競技志向の強いクラブにおいては、指導内容と費用負担のバランスがよりシビアな問題になると考えられる。

課題への対応方針

- 生徒や保護者のニーズは多様化しているため、競技力向上だけでなく、複数種目の導入やレクリエーション的要素を取り入れた活動を行うクラブにも目を向ける必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 受益者負担の原則に基づく適切な参加費徴収の体制づくり及びクラブの安定的な運営に資する自主財源の確保を検討を行う。
- 実証研究終了後を見据えた、運営資金確保の手段、公的資金と受益者負担のスキームを検討を行う。
- 経済的困窮世帯への支援スキームの検討を行う。

取組の成果

- 本実証事業で、困窮世帯の把握が困難であったため、困窮世帯の直接的な声を聞くことはできなかった。
- 運営資金の確保や支援スキームの検討については、取り組めなかった。

今後の取組における課題

○月会費の徴収等については、金銭の管理等、負担とリスクが必ずつきまとうことになる。任意団体である実施主体では難しいことも多く、法人格をもった運営団体等が必要になると考える。また、公的資金の援助を含めた安定的な資金確保の体制づくりについても今後の課題である。

課題への対応方針

- このたび国が示した困窮世帯への財政支援について、市としての体制を早急に整える必要がある。



球場練習の様子

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

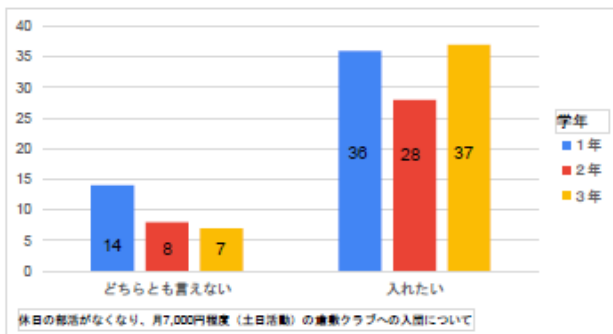
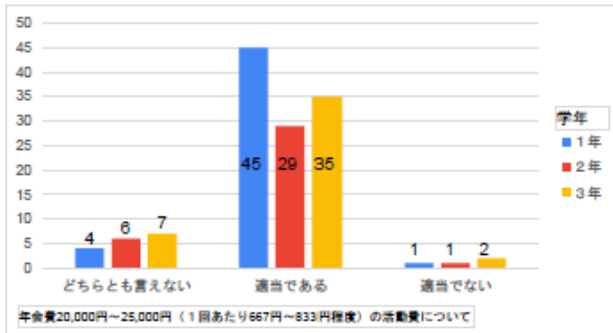
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

○現在の年間30回の活動から、部活動の時間もすべて地域クラブとして活動した場合の年間100回の活動でシミュレーションした。
 ○質の高い指導を考えると、最低でも選手10名に対して指導者1名は必要と仮定する。本事業では166名に対して28名の指導スタッフを配置したが、実際に出席できる人数は、平均して15名程度だった。選手100名（2学年分）に対して指導者が15名いれば、指導もなんとか回るイメージである。すなわち6～7名の選手で1名分の指導者の謝金を払う試算が以下のシミュレーションである。道具代等や会場代等、競技ごとに違いはあるため、その部分は各実施主体で運営できる金額を設定すればよいと考える。



倉敷クラブのシミュレーション

☆現在☆（年間30回程度の活動）

年会費25,000円／12か月 ≒ **2,083円／月**



☆今後☆（土日の年間100回の活動の場合）

<指導者謝金>

時給1,000円×4時間×年間100日×15人 = 6,000,000円

6,000,000円÷100人≒60,000円／12か月 ≒ **5,000円／月**



5,000円＋謝金以外でかかる費用2,000円 → **受益者負担**

7,000円／月

※協賛金や財政支援で減額したい

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 中学校施設を市の学校施設開放事業として利用する。
- 倉敷市や周辺市の高校のグラウンドを利用する。

取組の成果

- 部活動の時間と調整することで、中学校施設の利用場所を確保できた。
- スタッフの勤務校を利用したため、鍵の管理やネット・ベース・整備道具などの備品利用が円滑に行えた。
- 当日、勤務校スタッフが不在となった場合、運営が非常に混乱した。
- 雨天時の活動代替場所の確保が必要とわかった。
- キーボックスの設置等、ハード面の整備が必要であることがわかった。セキュリティ問題と合わせて検討する必要がある。
- 活動場所が転々としたため、道具の運搬や事前準備の負担がスタッフに集中した。
- 市の野球施設は抽選のため、必ずしも希望日程を確保できず、日程や場所の変更を余儀なくされる場合があった。
- 駐車場が狭い学校が多く、送迎時に校門付近が混雑し、近隣からの苦情が発生した。
- 高校施設を借りることは、施設面や進路選択の面においてもとても有効で、選手・保護者からも好評だった。

今後の取組における課題

○学校施設の利用に関する規定や優先的に使用できる団体について、ルール化することが課題である。

課題への対応方針

○学校施設については、現段階では部活動との調整が必要になる。今後、拠点を決め、活動できる場所を確保できると、道具もその拠点校に置かせてもらうことで移動する必要がなくなり、管理に負担感がなくなると考える。



高校施設の利用

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- ICT の活用による予約システムの構築の検討
- 予約システムと連動したスマートロックの導入、キーボックス等による鍵の受け渡しの検討

用具使用・管理等における取組

- 用具等の保管スペースの確保



雨天時の中学校体育館施設



道具の管理（市内中学校の空き倉庫）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：**その他の取組**

取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○選手・保護者・指導者へアンケートを実施した。

取組の成果

○別紙 2 4 ページのような数字や意見を中心に、選手・保護者・指導者からの生の声を聴くことができた。

今後の取組における課題

○来年度以降にアンケートをとる場合の質問事項について検討する。

課題への対応方針

○選手・保護者・指導者の声を反映できるように自治体として方針を考える。

実証事業「1・2年選手」アンケート (倉敷クラブ)

倉敷市のアンケートにご協力ください。これは倉敷クラブの「選手」対象アンケートです。
今後、地域クラブの運営を行う中で、あらかじめ課題を洗い出す必要があります。
今後の取組のヒントにさせていただきたいと考えておりますので、正直にまた忌憚ないご意見をいただけたらと思います。
よろしくお願いたします。

[アカウントを切り替える](#)

共有なし



* 必須の質問です

現在の学年を教えてください。 *

? 1年

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域移行（展開）検討準備会は4年目を迎えた。昨年までは、現状報告が中心で、活発な意見交換が行われる段階には至っていなかったが、今年度は、教育委員会や市長部局担当課、学校現場など、各立場から意見や要望が示され、参加者全員が当事者意識を持って課題を捉え、主体的に考える段階へと進展したと感じている。

今回の実証事業では、倉敷市で唯一の軟式野球クラブである「倉敷クラブ」に委託し、クラブ運営における課題の洗い出しを行った。「倉敷クラブ」は、市内の野球部に所属する選手を対象に活動するクラブであり、指導者の多くが現役の教員である。また、市内全域で編成されたチームとして活動しているため、人数の多い大規模な実施主体（チーム）である。

この様な形で野球競技が円滑に運営できるのであれば、一つのモデルケースとなり、他の競技にも同様の仕組みを展開できる可能性があると考えた。実証の過程では、教員の兼職兼業、学校施設の利用、用具の管理、連絡アプリの使用など、今後の地域クラブ運営において欠かせない課題について検証を行った。

また、選手・保護者・指導者それぞれにアンケートを実施し、生の声を把握することができた。これらの成果を、今後の倉敷市における地域展開に生かしていきたい。

●成果の評価

倉敷市内全域から希望者を募集したところ、選手数が予想を超えて増加し、複数会場の確保が必要となった。また、活動拠点が定まらず市内を転々としたため、保護者による送迎の負担が増え、道具の管理や持ち運びにおいても課題が生じた。

競技人口の少ない競技については、市内全域から集約する方法はやむを得ない面がある。一方で、可能な限り、市内の各地区に実施主体（チーム）を設け、生徒が自力で通える場所で活動機会を確保する必要性を感じた。

活動場所については、市内の中学校施設を多く活用した。施設の確保や調整は概ね円滑に進んだが、学校によってはキーボックス等のハード面の整備が必要であることがわかった。また、屋外競技においては、雨天時の代替活動場所を事前に確保しておく必要性を強く感じた。

運営面では、教員の兼職兼業の申請、許可、実施報告等を適切に行い、年間を通じて大きな混乱はなかった。しかし、会計業務、特に教員の兼職支払い業務については負担が大きく、チーム会計・監査・指導・助言等を行う運営団体の必要性を認識した。

●今後に向けて

今後は新規クラブの立ち上げ支援に加え、現在活動している部活動を地区ごとに整理・集約し、倉敷市を複数地区に分け、少なくとも各地区において一つ以上のチームを確保できるよう調整する必要があると考える。

また、競技種目ごとに現状や課題は異なるため、中体連の専門部と密に話し合い、チーム数や編成の在り方について協議を重ねながら、より適切な運営体制を構築していきたい。

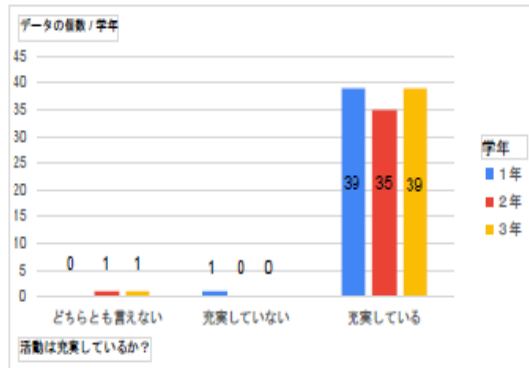
さらに、運営団体と実施主体の役割を明確にした仕組みを整えることで、将来にわたって継続可能な体制づくりを目指したい。

2.実証内容と成果②

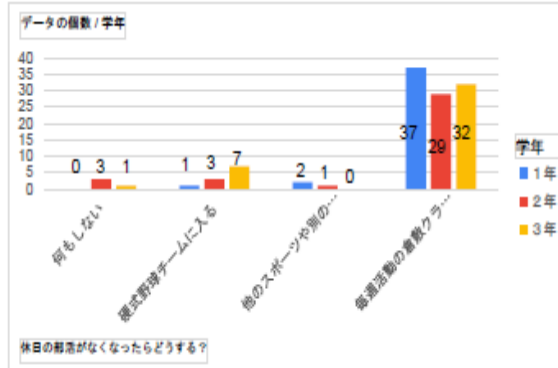
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（選手）

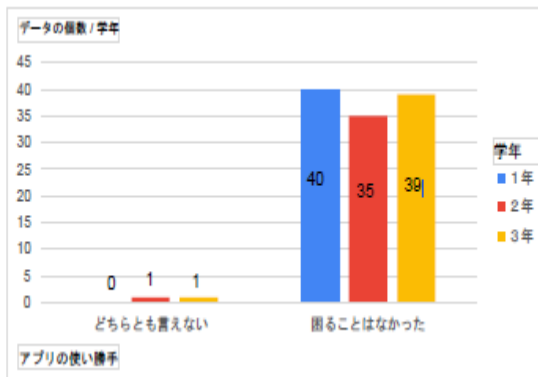
Q.倉敷クラブの活動は充実していますか？



Q.もし休日の部活動がなくなったらどうしますか？



Q.アプリの使い勝手はどうでしたか？



Q.倉敷クラブの魅力と課題をおしえてください。



●参加者/関係者の声

参加者/選手①

休日の部活がない日に野球ができること。部活の先生以外の人からの知識が身につくこと。部員以外の人達のバッティングの打ち方や、守備の仕方が見れること。たくさんの人達と競えること。いろいろな人の考えが聞けること。野球が上手くなれることが魅力です。

参加者/選手②

人数が多くて待ち時間が長かったのもっと効率の良い練習ができればより一層良い活動になると思う

参加者/選手③

もっと活動日を増やしてほしい。

参加者/選手④

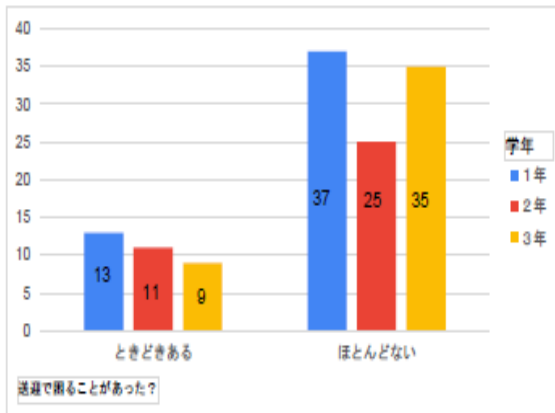
- ・選手が多いから多くないとできないような練習（ランナー付きノックなど）ができる
- ・たくさんの素晴らしい指導者のおかげで有益な情報で溢れている
- ・設備がものすごく整っているので、部活動でできないような練習ができる
- ・競争心が湧く
- ・一人一人の野球へのモチベーションが高いから自分のモチベーションも上がる

2.実証内容と成果②

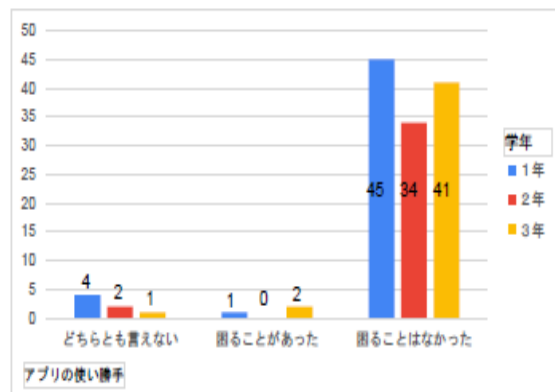
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（保護者）

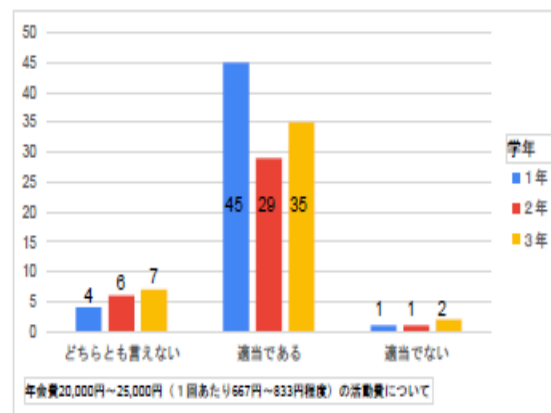
Q.送迎で困ることがありましたか？



Q.アプリの使い勝手はどうでしたか？



Q.年会費25,000円は適当な金額ですか？



Q.倉敷クラブの魅力と課題をおしえてください。



●参加者/関係者の声

参加者/保護者①

休日友人の輪が広がる。部活動の自チーム以外の選手と競い合え、野球技術の高い選手と野球ができ自身のレベルアップにもなる。

参加者/保護者②

先生方が熱心で、指導方法も充実している。選手への暴言もなく、子どもたちに考えさせる指導をしているように見えるこれからもそうあって欲しいし、全ての指導者はそうであって欲しいです。

参加者/保護者③

ちょっと人数が多過ぎです。対象エリア・中学校を絞るとか。でもそうすると会費がアップしますよね。指導者の問題もあるかもしれませんが。学校の先生がコーチだから安心して預けられる！

参加者/保護者④

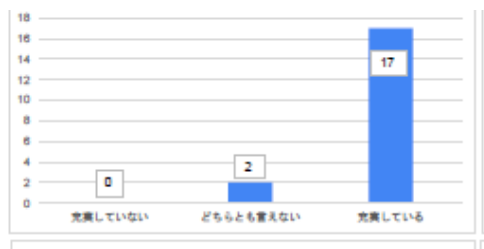
学校の先生がコーチだから安心して預けられる。

2.実証内容と成果②

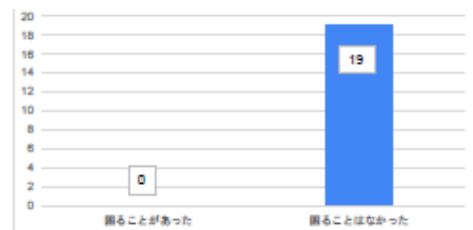
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（指導者）

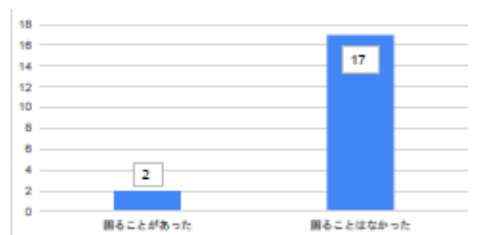
Q.倉敷クラブの活動は充実していますか？



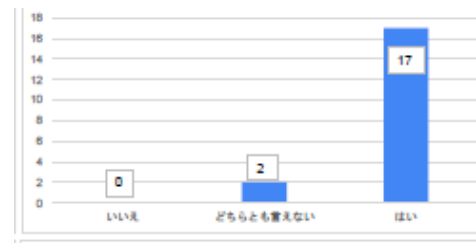
Q.兼職申請・報告で困ったことはなかったか？



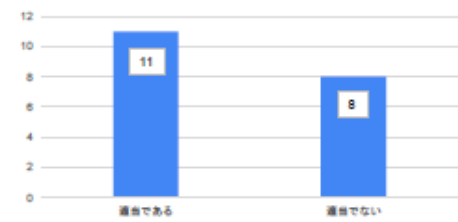
Q.アプリの使い勝手はどうでしたか？



Q.今後も継続して指導したいか？



Q.時給1,000円は適当か？



Q.倉敷クラブの魅力と課題をおしえてください。



●参加者/関係者の声

参加者/指導者①

選手の習熟度やニーズに合わせたグループ分けや、学年を跨いだ交流が増えてほしい。そのためにも、スタッフの増員が不可欠。無理ならば、今後選手人数の調整も必要か。

参加者/指導者②

会場が転々とするのはメリットもあればその都度メニューを考える先生や道具グラウンドの準備での負担も大きいのである程度軸となる球場があってもいいのかなと思います。

参加者/指導者③

平日は、体づくり、体を動かす練習をする日と、野球の練習をする日と1日ずつくらいあったら良いと思う。

参加者/指導者④

倉敷クラブとしては現在のままで、今後、倉敷クラブ内で5チーム程度に分けて活動するべきだと思う。

参加者/指導者⑤

選子どもたちにとっても指導者にとっても横の繋がりが出来て、倉敷市全体のレベルアップが図れる。

2.実証内容と成果④

参考資料



【障がい者野球チーム「桃太郎クラブ」との交流試合】



【社会人チーム「イーグル会」との交流試合】



【大会参加（全日本少年県予選）】



【球場練習】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

倉敷支部中体連野球部で検討開始

令和6年

指導者決定(希望者)とクラブ運営についての協議

選手募集、体験会と説明会

令和7年

実証事業スタート

令和8年

地域クラブ活動の運営改善

●ステークホルダー

中学校体育連盟

●経過

倉敷支部の中学校体育連盟野球部の顧問会で、期間限定の選抜チームから通年の希望制地域クラブへ形を変えることを提案した。

●実施にあたって生じた課題

部活動が継続している段階での活動になるため、日程調整が一番の課題となった。

●実施内容、工夫した点 等

何も無い状態からチームを立ち上げるには多大な労力が必要なため、既存としてあった選抜チームの活動体制を変えることでスムーズなチームの立ち上げにつながった。

指導者においては、これまでの半強制的に参加せざるを得なかった活動から、完全に任意の活動へと変化した。

●ステークホルダー

倉敷クラブ

●経過

野球部顧問やの野球経験者等に指導希望を募り、指導者を確保するとともに、スタッフ構成について検討した。

また、文書通知・体験会を通して選手を募集し、結成会を開催した。

●実施にあたって生じた課題

指導者それぞれの考えや思いが強く、クラブとしての方向性について共通認識を持つことが難しかった。

●実施内容、工夫した点 等

指導スタッフが何度も集まり、クラブとして統一すべき方針や考え方について確認を行った。さらに選手や保護者に対しても、クラブの目指す姿を丁寧に説明し、理解を得たうえで参加してもらった。保護者の負担については、年会費と送迎以外の負担が生じないように配慮した。

●経過

2～4会場に分けて活動しており、各会場で活発な活動が行われている。

●実施にあたって生じた課題

参加人数の増加に伴い、複数の会場を確保する必要が生じたほか、用具の管理や運搬が課題となっている。

また、選手の出場機会の確保や保護者による送迎についても課題が見られた。

●実施内容、工夫した点 等

人数が多いため、学年ごとに分けた活動を主として行った。大会メンバーの選考にあたっては、日頃から競争意識を高められるような仕組みを取り入れている。

指導者には一定の担当や役割を割り当て、それぞれが責任を持って活動に取り組める体制を整えた。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域展開の流れ

(現段階の担当課案であり倉敷市としての方針は今後示す予定)

R5年度 ~ R7年度			
部活動		クラブ	
単独校部活動	合同部活動	地域クラブ活動	民間クラブ活動

※ 民間クラブ活動は営利目的のクラブ

R8年度 ~ R13年度				
部活動		クラブ		
単独校部活動	ブロック部活動 (地域連携)	地域クラブ活動		民間クラブ活動
		認定地域クラブ活動	地域クラブ活動	
		兼職兼業可	兼職兼業可	兼職兼業不可

※ 地域連携の指導者は地域の人材

R14年度 ~		
クラブ		
地域クラブ活動		民間クラブ活動
認定地域クラブ活動	地域クラブ活動	

令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県倉敷市

自治体名：倉敷市

担当課名：保健体育課

電話番号：086-426-3835

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	356.07 km ²
人口	471,742 人
公立中学校数	27 校
公立中学校生徒数	12,865 人
部活動数 (運動部活動のみ)	約380部活
地域クラブ活動数	2クラブ (全体数は把握できていない)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

倉敷市は、昭和42年に旧倉敷市・児島市・玉島市が合併して誕生し、その後、昭和46～47年に庄村・茶屋町、平成17年8月には船穂町・真備町を合併した。これにより東瀬戸内圏の拠点都市として発展を続けており、県内では岡山市に次ぐ規模の市となっている。

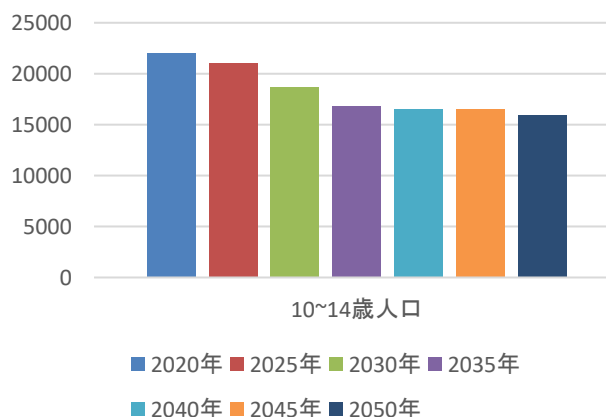
市内には、公立中学校が27校あり、在籍生徒数は12,865名（令和7年5月現在）である。しかし、全体として生徒数は減少傾向にあり、特に沿岸部や真備地区など一部地域では、急

激な減少が見られる学校も存在する。

小学生を対象とした文化芸術団体はいくつか存在するが、中学生を対象に継続的に活動できる団体は部活動以外には極めて少ない。部活動においても、少人数で活動する学校や部が増加しているのが現状である。

部活動の地域連携・地域展開を進めていく上でも、受け皿となる団体の発掘や新規立ち上げが必要となり、合わせて指導者の確保も大きな課題と考えている。

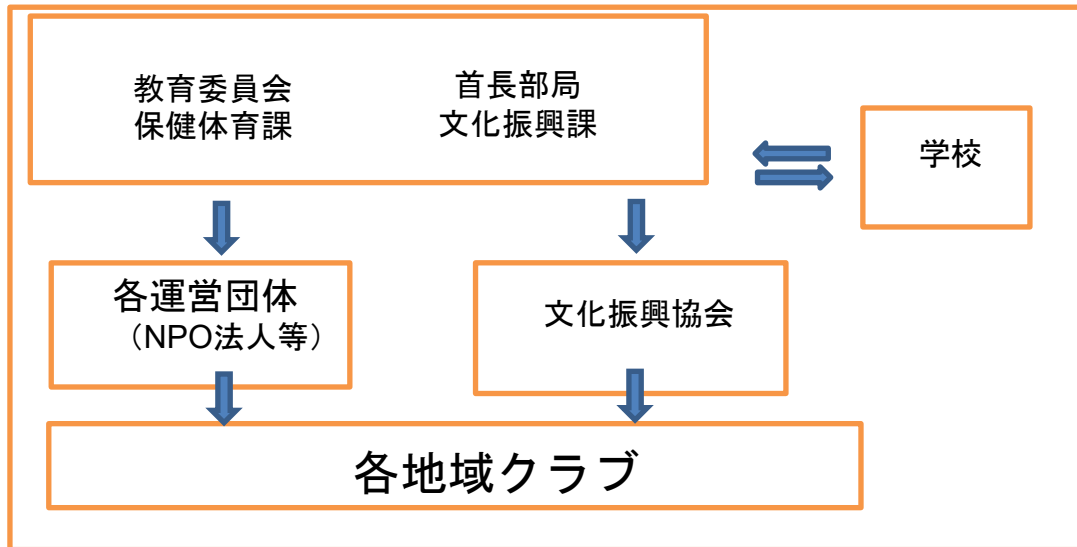
倉敷市人口推移〈10~14歳〉



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（保健体育課）※コーディネートを兼ねる

- ・倉敷モデル（今後の施策とスケジュール）の作成
- ・兼職兼業の制度の確立
- ・受益者負担や困窮世帯への補助等の検討
- ・部活動の現状把握とクラブ設立へのサポート
- ・既存のクラブの現状把握と連携
- ・新しい地域クラブや指導者の発掘

◎首長部局（文化振興課）

- ・倉敷モデル（今後の施策とスケジュール）の作成
- ・文化振興協会との連携
- ・新しい地域クラブや指導者の発掘
- ・クラブチームに対する補助金の検討

年間の事業スケジュール

- 4月 兼職兼業手続き
随時保険加入
第1回練習会
- 8月 第1回部活動地域移行検討準備会
練習生募集
- 9月 第2回練習会
- 10月 第3回練習会
- 11月 第4回練習会
- 11月 児島地区練習会
- 12月 第5・6回練習会
- 1月 発表会
第7回練習会
- 2月 第8・9回練習会
音楽会参加

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（0部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	32人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
MIRAI Wind Club	任意団体	吹奏楽	休日 11回	9:00-12:00	1年生116人 2年生119人 3年生 4人	R7.9月～ R8.1月	32人	2人 (兼務なし)	500円 /1回	参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし

2.実証内容と成果

主な取組例

●ミライウィンドクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	MIRAI Wind Club
期間と日数	月1回程度
指導者の主な属性	民間指導者・元教員・現職教員
活動場所	倉敷市立東中学校（主な活動場所）
主な移動手段	自転車・自家用車での送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	4,500円（1回500円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
役割：委託・監督・助言を行う
- 運営スタッフ 2名
役割：日程調整・学校との連絡・講師派遣・謝金支払等を行う
- 指導スタッフ 32名
役割：演奏指導・生徒連絡等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 学校との連携がとれた地域クラブ運営を目指す。
- 運営団体と実施主体は事実上同じだが、役割を分けて運営することで、今後の形を模索する。

取組の成果

- NPO法人等の運営団体があることが理想である。
- さまざまな指導経験やコンクール運営等の実績もあるため、学校の教員が指導や調整に関わってくれることでスムーズな活動につながった。
- 実証事業ということで、自治体の後ろ盾があることで、施設利用等の確保についても円滑に行われた。

今後の取組における課題

- 運営団体を自治体が担うのか、法人格をもった一団体に委託するのか等、市としての方針を早急に決定し、進めていかないといけない。

課題への対応方針

- 引き続き、コーディネーターとなっている大学教授や吹奏楽連盟等と意見交換を交わし、よりよい推進体制を確立する。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

OMIRAI Wind Clubの代表は楽器店を経営しており、日頃から学校部活動の実情について十分な理解を有している。そのため、クラブ代表が学校関係者・民間の指導者等との連携を円滑に進めることができ、コーディネーター的な役割を果たした。

○学校施設利用や楽器貸出等に関する手続きを、顧問を通じて実施することで、学校との円滑な連携体制を構築することができた。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

○運営（コーディネーター）スタッフが吹奏楽部顧問との連携を密に行い、部活動とは別枠で実施するクラブ練習会の練習日程等について、顧問に連絡調整を担ってもらう体制とした。なお、連絡アプリ等の活用はしなかった。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

・研修会等は実施できなかったものの、指導者には指導実績のある顧問や音楽教室の指導者等が含まれており、コンプライアンス上の問題は認められなかった。

○会計処理については、楽器店の経営経験を生かし、任意団体ではあるが、明確かつ適正な会計処理を行うことができた。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

○参加申し込みには、緊急連絡先を記すなど、緊急対応がとれるように配慮した。

○クラブとして保険に加入し、活動中・移動中の傷害等の保障を行った。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 今後の地域指導者として担うために、指導者には資格の取得を推奨する。
- 県が主催する指導者研修会等の案内を行い、指導者の質の向上を目指す。
- 部活動指導員の確保や研修の充実を図ることで、地域クラブ活動の指導者として活躍できる人材の裾野を広げていく。

取組の成果

- 県が実施する指導者研修会とは別に、県吹奏楽連盟が独自に認定講習会を開催することにより、研修受講者に対する資格発行を行う仕組みを検討している。

今後の取組における課題

- 人材バンクを効果的に活用するための、具体的な仕組みづくりが必要である。
- 資格取得者と未取得者をどのように区別し、役割分担を行っていくかについて検討する必要がある。
- 吹奏楽連盟の会員の多くは学校教員であり、一般の参加者が少ない現状を踏まえ、これまで連盟に加入していなかった一般の方々を新たに取り込む方策を検討する必要がある。

課題への対応方針

- 文化芸術系の指導者資格の在り方について検討したい。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

○特に取り組めなかった。

※来年度は指導者認定講習会を県吹奏楽連盟が開催することとしている。

指導者総数	32人
資格所持指導者数	不明人
本年度資格を取得した指導者数	不明人

平日・休日の一貫指導に関する取組

○平日に活動することはなかった。倉敷市の広域で集めると保護者送迎を余儀なくされるので、平日はより自転車で通える距離での活動場所の確保が求められると感じた。

○顧問が調整に関わったことで、平日の部活動と休日のクラブ活動との日程調整については、十分に対策を行うことができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 倉敷市文化振興協会や中文連、吹奏楽連盟、大学等の関係団体と連携し、受け皿となり得る団体や指導者の確保について、引き続き協議を行う。
- 高校生との交流や高校施設の活用について検討するとともに、小学生との交流についても検討する。

取組の成果

- 関係団体との協議は行ったものの、具体的な事業実施など大きな取組には至らなかった。

今後の取組における課題

- 文化部活動に中でも、特に休日に活動を行っている吹奏楽部の活動については、受け皿や活動環境の確保が大きな課題であると認識している。

課題への対応方針

- ハード面の改修に係る予算の確保や、学校施設開放事業に関する規約改正等を行い、活動環境の整備を進めていく必要がある。

地域公共交通との連携に関する取組

- 本年度については、特に大きな取組は実施していない。

関係団体等との連携に関する取組

- 吹奏楽連盟と連携を図り、情報共有を行った。その結果、来年度以降の活動の方向性について確認することができた。

まちづくりと連携した取組

- 本年度については、特に大きな取組は実施していない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 地元企業に対し、寄付等の支援を依頼する。
- チラシ等を活用した広報活動を行い、事業内容の認知向上に努める。
- 他市町村との連携による取組の可能性について検討を行う。

取組の成果

- 今年度の寄付の依頼は見送った。
- 活動回数が少なく、また部活動に所属する生徒を主な対象にしていることから、学校の顧問を通じた連絡が中心となり、大規模な広告・広報活動の実施には在らなかった。
- 他市町村との連携については、現時点では実現できていない。

今後の取組における課題

- 年間を通じて継続的かつ多様な活動ができる体制を整えてからでないと、活動資金として寄付を募ることは難しいと考える。

課題への対応方針

- 吹奏楽については、楽器購入費、メンテナンス費、運搬費、施設使用料など多額の経費を要する。そのため、会費や個人寄付のみでの運営には限界があり、企業からの寄付や協賛など、外部財源の確保が必要不可欠であると考ええる。

市区町村等を越えた取組

- 近隣の自治体は比較的規模の小さい市町が多く、それぞれが小回りが利く取組を行っているため、現段階では連携は容易でないと考えている。しかし、互いにメリットを生み出す連携方法を検討し、将来的には自治体間での協力体制を構築していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

○専門の指導者による具体的かつ丁寧な指導の実施。
○練習の成果を発表する場を設け、生徒が目標をもって活動できる環境を整える。

取組の成果

○各パート（楽器）の専門家を講師として招き、パート別練習を実施した。普段は同じ楽器を担当する生徒が少ない中、同じパートの他校生徒から刺激を受けながら活動することができた。
○単に練習を行うクラブではなく、発表の場を設定することで、目標をもって練習に取り組む姿勢が見られた。コンクールや大会への参加が理想ではあるが、現段階では部活動との両立が難しく、発表会の実施が現実的な到達点である。

今後の取組における課題

○同じ楽器を演奏する生徒が集まることで技能向上の効果は高まる一方、遠方への移動を伴う場合、毎週のように継続的に実施することは難しい。
○ホール会場での発表会は生徒の大きなモチベーションにつながったが、今年度は実証事業の補助金により実施できたものであり、今後費用面での負担が大きな課題となる。

課題への対応方針

○定期的に専門家から指導を受けられるような指導体制を構築する。
○移動が困難な場合には、zoom等のICTを活用した指導・交流の導入を今後検討していく。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 受益者負担の原則に基づく適切な参加費徴収の体制づくり及びクラブの安定的な運営に資する自主財源の確保を検討を行う。
- 実証研究終了後を見据えた、運営資金確保の手段、公的資金と受益者負担のスキームを検討を行う。
- 経済的困窮世帯への支援スキームの検討を行う。

取組の成果

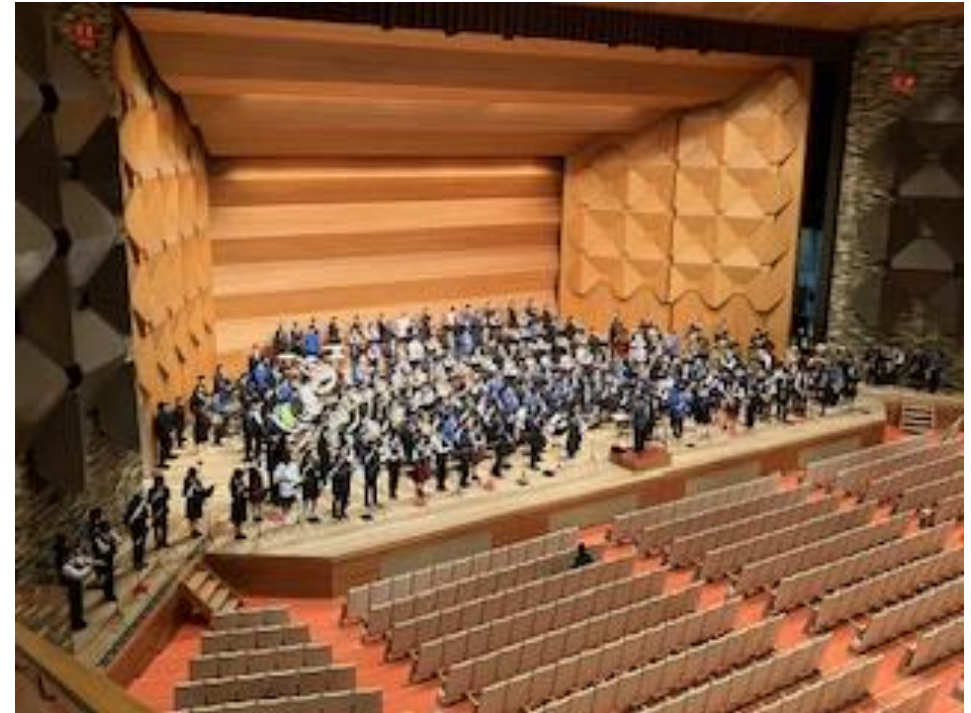
- 本実証事業で、困窮世帯の把握が困難であったため、困窮世帯の直接的な声を聞くことはできなかった。
- 運営資金の確保や支援スキームの検討については、取り組めなかった。

今後の取組における課題

- 月会費の徴収等については、金銭の管理等、負担とリスクが必ずつきまとうことになる。任意団体である実施主体では難しいことも多く、法人格をもった運営団体等が必要になると考える。また、公的資金の援助を含めた安定的な資金確保の体制づくりについても今後の課題である。

課題への対応方針

- このたび国が示した困窮世帯への財政支援について、市としての体制を早急に整える必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校施設で活動し、セキュリティや楽器運搬等の運用上の課題を具体的に整理し、今後の検討資料とする。
- 倉敷市や周辺市の高校施設を利用も検討する。

取組の成果

- 学校施設を利用するに当たり、学校への申請等手続きを円滑に進めることができた。本事業では実証事業としての位置付けにより、使用料の免除をうけることができた。
- 高校施設については本事業期間中においては実施に至らなかった。

今後の取組における課題

- 学校施設を利用するためには、現時点ではセキュリティ上の理由から、利用する学校の顧問が鍵の開け閉めを行う必要がある。
- 地域指導者のみで指導する場合、学校施設を利用するためのハード面が整っていない。

課題への対応方針

- ・倉敷市としてハード面（キーボックスの配置やスマートキーの導入・セキュリティの独立など）の改修工事の予算をとること。
（※体育館のキーボックス今後改修予定あり）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

○本事業では実施できなかったが、来年度（令和8年度）キーボックスの配置や学校体育施設開故事業のオンライン申込等が導入される予定である。ただし、文化部で使用する教室等は別事業となり、整備されないため、早急に進めていく必要がある。

用具使用・管理等における取組

○学校の備品である楽器を借りるために、物品借用の契約を交わし、学校長に認めてもらう形をとった。今後も同様な形が認められれば、道具の移動等は最小限に抑えられると考える。

物品借用許可書（使用貸借）

MIRAI Wind Club 様

令和7年 月 日に借用書（使用貸借）のあった件につき、次の条件を付して、借用を認める。

記

1 借用物品

物品名称	数量	借用目的

2 借用期間

令和7年5月1日（木）～ 令和8年2月28日（土）

3 借用条件

- 借用目的に沿って使用すること
- 借用物品の性状に応じた管理を行い、その費用を負担すること（消耗品の交換を含む）
- 理由の如何に関わらず、第三者への借用（貸し）を行わないこと
- 借用物品が、毀損、汚損、紛失等した場合には、直ちに中学校に届け出るとともに中学校が指示する修繕、弁償その他の措置を速実に行うこと
- 理由の如何に関わらず、借用期間の延長は認めない。再度、借用を希望する場合は、改めて借用書を提出すること

令和 年 月 日

倉敷市立 中学校
校長

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

・保護者・選手のアンケートを実施し、今後の活動改善の参考にする。
<2月末に集約予定>

取組の成果

○別紙23ページのような数字や意見を中心に、生徒・保護者からの生の声を聴くことができた。

今後の取組における課題

○来年度以降にアンケートをとる場合の質問事項について検討する。

課題への対応方針

○選手・保護者・指導者の声を反映できるように自治体として方針を考える。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域移行（展開）検討準備会は4年目を迎えた。昨年までは、現状報告が中心で、活発な意見交換が行われる段階には至っていなかったが、今年度は、教育委員会や市長部局担当課、学校現場など、各立場から意見や要望が示され、参加者全員が当事者意識を持って課題を捉え、主体的に考える段階へと進展したと感じている。

今回の実証事業では、倉敷市で唯一の吹奏楽クラブである「MIRAI Wind Club」に委託し、クラブ運営における課題の洗い出しを行った。「MIRAI Wind Club」は、市内の吹奏楽部に所属する生徒を対象に募集を行うクラブであり、指導者は民間の指導者、演奏者、教員OB、現役の教員などである。また、市内全域で一つのチームとして活動しているため、人数の多い大規模な実施主体（チーム）となっている。

このような形で吹奏楽クラブが円滑に運営できるのであれば、一つのモデルケースとなり、他の競技等にも同様の仕組みを展開できる可能性があると考えた。実証の過程では、教員の兼職兼業、学校施設の利用、楽器の運搬、楽器の貸借など、今後の地域クラブ運営において欠かせない課題について検証を行った。

また、生徒・保護者・指導者それぞれにアンケートを実施し、生の声を把握することができた。これらの成果を、今後の倉敷市における地域展開に生かしていきたい。

●成果の評価

倉敷市内全域から希望者を募集した結果、多くの生徒が参加し、各パート練習を充実させることができた。その一方で、教室の確保や事前準備に多くの時間と労力を要し、運営スタッフの負担は少なくなかった。

活動場所については、市内の中学校施設を多く活用した。施設の確保や調整は概ね円滑に進んだものの、活動する学校の顧問がセキュリティの解除等を行う必要があるなど、セキュリティ面での課題が大きかった。また、市内全域を対象としたため、自転車で通えない生徒も多く、保護者の送迎が必要な家庭も多かった。

こうした課題を踏まえると、現実的には、各地区にクラブの拠点を設け、生徒自身が自力で通える場所で活動することが望ましいと考えられる。今回、ひとつに集約していたクラブを複数の地区に分けて活動するという方向性を検討できたことは、大きな成果であった。

運営面では、教員の兼職兼業の申請、許可、実施報告等を適切に行い、年間を通じて大きな混乱はなかった。ただし、民間の楽器店店主が代表を務めたことで会計業務等は円滑に進んだが、一般的には同様に進まないケースも多いと考えられる。このことから、運営団体（ガバナンス組織）の必要性を強く認識した。

なお、楽器の貸借等については、事前に学校と十分な連携を図ったことで、大きなトラブルは発生しなかった。

●今後に向けて

新規クラブの立ち上げ支援に加え、現在活動している部活動を地区ごとに編成し、各地区に少なくとも1つ以上の実施主体（チーム）を確保できるよう調整する必要があると考える。特に文化部の中でも吹奏楽については、これまで休日の活動を行ってきたため、吹奏楽部間や吹奏楽連盟と密に話し合いを行い、クラブのあり方や活動方法について共通理解を図っていきたい。

また同時に、運営団体や実施主体の仕組みを準備し、持続可能な体制づくりを目指したいと考えている。

2.実証内容と成果④

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

中川楽器として
「MIRAI
Wind Club」
立ち上げ・活動

令和6年

学校現場との
調整

令和7年

実証事業の開始

令和8年

地域クラブ活動
の拡大・改善

●ステークホルダー

中川楽器

●経過

文化庁の地域文化クラブ推進事業の中で「MIRAI Wind Club」を立ち上げた。株式会社中川楽器を運営主体として10月～1月の期間に7回の合同練習会を実施し、210名の生徒が参加した。

●実施にあたって生じた課題

学校施設開放の規約上、倉敷市立中学校の施設を利用することは容易でなく、協力してくれた私立高校を中心に利用させてもらった。

●実施内容、工夫した点 等

各楽器の専門家を指導者として招き、普段の部活では教えてもらえない細やかで専門的な指導までしていただくことができる体制を整えた。

●ステークホルダー

MIRAI Wind Club

●経過

1年目のMIRAI Wind Clubの活動を継続し、2年目には中学校施設を利用することができた。

令和6年度の後期には倉敷市と連携して、国の実証事業として取り組むために、倉敷市教育委員会とMIRAI Wind Clubで打ち合わせを繰り返し、令和7年4月1日に倉敷市と契約を行った。

●実施にあたって生じた課題

活動場所の確保や移手段、学校備品（楽器）の貸し出し等について大きな課題があることがわかった。

●実施内容、工夫した点 等

実証事業中の施設の貸し出し、楽器の貸し出し等の申請手続きの整備を進め、自治体として各校に協力要請を行った。

●経過

中川楽器が運営主体として行っていたMIRAI Wind Clubを楽器店が運営するのではなく、いち任意団体としてクラブ経営することで課題の洗い出しを行った。

●実施にあたって生じた課題

活動場所への移動（保護者送迎）や拠点校となった先生方の負担等があげられる。

●実施内容、工夫した点 等

少ない人数で活動する学校が増えている中、多くの人数で活動することで、同じパートの人と一緒に練習できる活動となっている。他校生徒との交流だけでなく、互いに刺激を受けることができ、技術の向上にもつながっている。また、発表の場を設けることで、練習に対するモチベーションを上げることができた。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域展開の流れ

(現段階の担当課案であり倉敷市としての方針は今後示す予定)

R5年度 ~ R7年度			
部活動		クラブ	
単独校部活動	合同部活動	地域クラブ活動	民間クラブ活動

※ 民間クラブ活動は営利目的のクラブ

R8年度 ~ R13年度				
部活動		クラブ		
単独校部活動	ブロック部活動 (地域連携)	地域クラブ活動		民間クラブ活動
		認定地域クラブ活動	地域クラブ活動	
		兼職兼業可	兼職兼業可	兼職兼業不可

※ 地域連携の指導者は地域の人材

R14年度 ~		
クラブ		
地域クラブ活動		民間クラブ活動
認定地域クラブ活動	地域クラブ活動	

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県玉野市

自治体名：玉野市

担当課名：教育委員会社会教育課

電話番号：0863-32-5577

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	103.58 km ²
人口	約53,000人
公立中学校数	7校
公立中学校生徒数	約1,100人
部活動数 (運動部活動のみ)	43部活
地域クラブ活動数	27クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

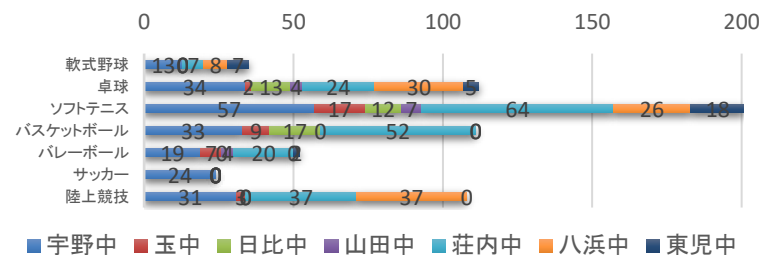
【現状】

- (運動部) ・軟式野球 ・卓球 ・ソフトテニス ・バスケットボール
・バレーボール ・サッカー ・陸上競技
- (合同) ・軟式野球 (市内4校)
・バレーボール (女子:市内2校)
- ・単独での大会出場ができない部活動が数種目ある。
- ・団体競技を地域展開する場合の大会参加への出場方法が難しい。(要検討事項)
- ・運動部の部員数が年々減少している。

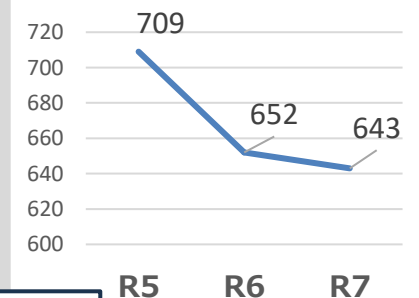
【課題】

- ・教員、保護者、生徒への説明 ・受益者負担額の検討 ・会場確保、生徒輸送手段の確保
- ・生活困窮世帯への経済的支援スキーム ・指導者の確保と配置 ・中学校体育連盟主催への大会参加
- ・休日の部活動の地域クラブ活動の開始 等

令和7年度 運動部別部員数



運動部の部員数推移

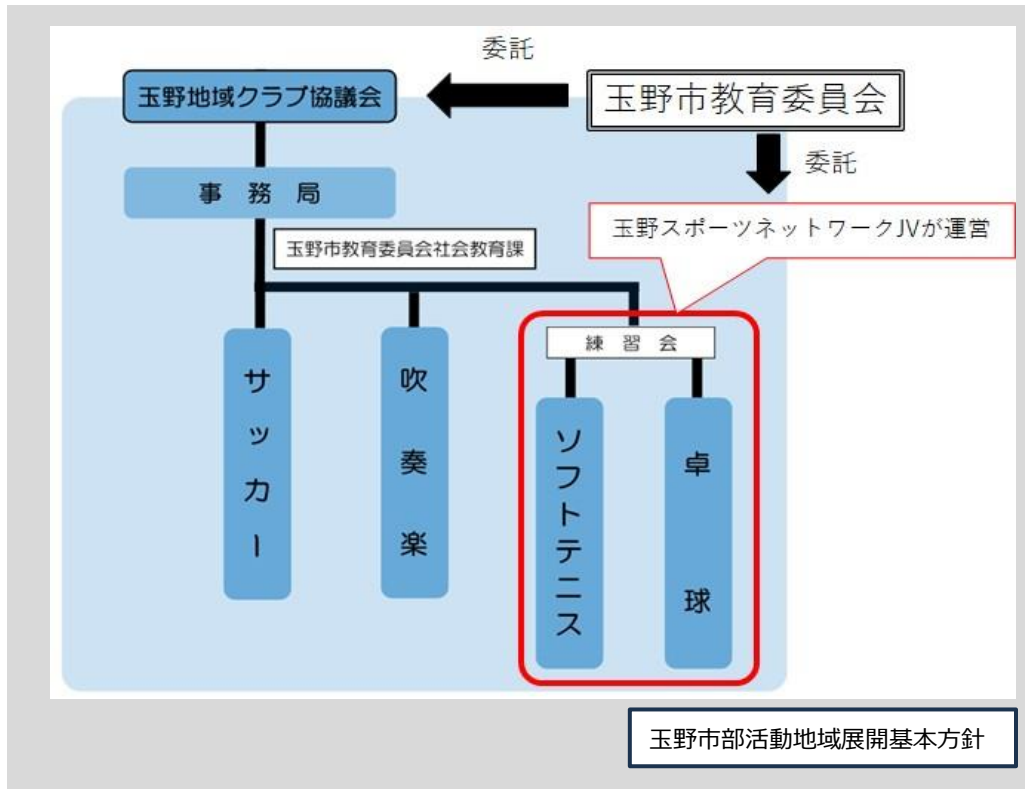


令和5～7年度 玉野市部活動調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（社会教育課）

・計画 ・立案 ・連絡調整 ・周知 ・実行

年間の事業スケジュール

- 令和7年4月～ ・玉野地域クラブ協議会 設立
- 令和7年4月～ ・実証事業：サッカー（FC玉野）
平日2日、休日1日
- 令和7年6月 ・中学校校長会 ヒアリング
- 令和7年7月 ・玉野地域クラブ協議会第1回役員会
- 令和7年7月～ ・実証事業：ソフトテニス、卓球
月1～3回程度
- 令和7年11月 ・中学校部活動顧問 意見交換会
- 令和7年12月 ・玉野地域クラブ協議会第2回役員会

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	3 クラブ（27部活動） （卓球）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0 クラブ	
全体の指導者数	13人	全体の運営スタッフ数	13人 （他の地域クラブ活動との兼務無）

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
FC玉野	玉野地域クラブ協議会	サッカー	・平日 2回 ・休日 1回	・17時～18時半 ・9時～11時	市内中学校生徒	通年 (4月から開始)	6人	1人 (内、兼務無)	10,000/年会費 5,000円/月会費	中体連、区タグラの大会に参加
ソフトテニス	玉野スポーツネットワークJV	ソフトテニス	・休日 1～3回/月	・7時～9時	市内中学校生徒	通年 (7月から開始)	3人	1人 (内、兼務無)	500円/回	大会は部活動
卓球	玉野スポーツネットワークJV	卓球	・休日 1～3回/月	・7時～9時	市内中学校生徒	通年 (7月から開始)	4人	1人 (内、兼務無)	500円/回	大会は部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- FC玉野（サッカー）：小学校6年生を対象に『体験会』を実施。
日時：10/9、16、30
参加延べ人数（小学校6年生）：12人

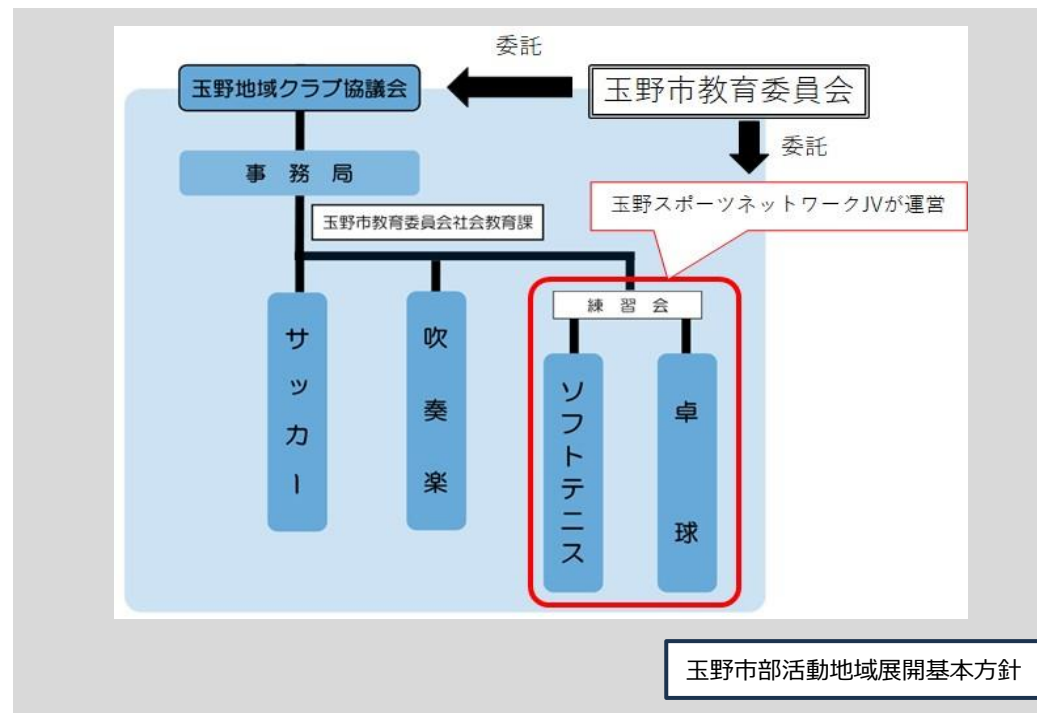
2.実証内容と成果

主な取組例

●【サッカー】FC玉野（玉野地域クラブ協議会）活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	玉野地域クラブ協議会
期間と日数	サッカー：月12回程度
指導者の主な属性	サッカー部顧問：3人 サッカー部OB：2人 スポーツ少年団指導者：1人
活動場所	玉野市立宇野中学校 岡山県立玉野高等学校
主な移動手段	生徒による自力移動 保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：70,000円 【内訳】 年会費：10,000円 月会費：5,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●玉野市教育委員会社会教育課（事務局）

役割：会計担当

●統括責任者

役割：練習計画作成、指導者・クラブ生への連絡調整、指導、大会引率 等々

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和7年度は、本課を事務局とする玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動を展開してきた。サッカーについては、休日だけでなく、平日にも地域クラブ活動を実施することができた。また、大会参加もFC玉野として出場することができ、年間を通して、メンバーを固定して活動することができた。

ソフトテニスと卓球については、玉野スポーツネットワークJVに運営を委託して、練習会を実施することができた。今後は、大会参加を視野に入れた活動になるように、体制整備を進めていきたい。

令和5年度から、全ての部活動について、令和8年度に休日の地域展開完成を目指して、取組を進めてきたが、結果的に、サッカー、ソフトテニス、卓球の3つの種目の地域展開となった。

その要因としては、本事業を推進すべき本課が、玉野地域クラブ協議会の事務局として、3つの種目の運営に多大な時間を費やしてしまったことが挙げられる。そのため、その他の種目の実施体制を構築することができなかった。

令和8年度は、『玉野市部活動地域展開基本方針』を元に、玉野地域クラブ運営委託先の民間事業者との連携を強化し、地域クラブ活動の拡大を図りたい。

●成果の評価

【玉野地域クラブ協議会について】

運営団体として、3つの種目については、統括することができたが、他の種目について、実施体制を計画、実行することができなかった。

【『玉野市部活動地域展開基本方針』について】

玉野地域クラブ協議会役員会を通して、本基本方針を策定することができた。本計画に則って事業を進めていきたい。

【実証事業について】

ソフトテニス、卓球の練習会では、年間計画を示すこと、同時に複数校に指導者を派遣することを計画していたが、指導者の確保が困難だったこともあり、直前での募集、各校持ち回りの実施となってしまった。

【人材バンクについて】

指導者を確保するために、人材バンク設置要綱を定めることができた。本要綱に基づいて、指導者を募集し、人材を確保していきたい。

●今後に向けて

令和8年度からは、玉野地域クラブ運営事業を民間事業者に委託して、部活動地域展開事業を進めていく。そのためには、学校と事業受託業者と本課との調整を大事にしていきたい。

地域クラブ活動の拡大のために、玉野地域クラブ運営委託先の民間事業者との協働を通して、サッカー以外の種目についての実施体制の整備を急ぎたい。

まずは、全ての部活動において、休日の展開を完了させたい。そして、玉野地域クラブを持続可能な団体として、運営体制を構築していきたい。

2.実証内容と成果④

参考資料



【FC玉野(サッカー)：試合】



【FC玉野(サッカー)：体験会(小学生対象)】



【ソフトテニス：練習会(クレイコート)・(レクレセンター)】



【卓球：練習会(レクレセンター)】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

学識者、学校関係者、スポーツ・文化芸術団体、首長部局、教育委員会を委員とする玉野市部活動地域移行検討委員会を設置。令和8年度からの休日の地域移行を目指すことを決定。

令和5年度

検討委員会設置、検討開始

実証事業実施

軟式野球、陸上競技、バスケットボール等の種目において実証事業。外部指導者による指導や部活動顧問による指導を実施。小学5・6年生、中学1・2年生対象。教職員、生徒、保護者、市民に、令和8年度からの休日の地域移行をアナウンス。

令和6年度

民間による玉野地域クラブ運営委託事業を展開するために、関係団体と調整開始。令和7年度を準備期間とし、令和8年度からの委託を目指す。令和7年度は、本課が事務局を担い、クラブの前段の任意団体を設立することを決定。

令和6年度

運営団体の選定

令和7年度の本課が事務局を担う、任意団体による地域移行の取り組みを推進するにあたり、各校長、顧問との調整を行う。平日は、部活動、休日は、地域クラブという形で並走することになるので、大会出場や活動日時について、現場の理解を得るための調整を開始。

令和7年度

任意団体による活動の開始

玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動を開始。種目は、サッカー（FC玉野）、ソフトテニス・卓球（練習会）。運営は、活動内容等の実務については、指導者、会計事務については、本課が担当。また、玉野地域クラブ協議会において、『玉野市部活動地域展開基本方針』を策定。令和8年度からの運営委託先と年間を通して、協議。

玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動の開始

令和8年度

玉野地域クラブ運営委託事業の開始。地域クラブ活動の円滑な運営を維持しつつ、地域クラブ活動を展開する種目を増やすため、関係団体、関係者との協議を進める。

令和8年度

玉野地域クラブによる地域クラブ活動の拡大

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県玉野市

自治体名：玉野市

担当課名：教育委員会社会教育課

電話番号：0863-32-5577

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	103.58 km ²
人口	約53,000人
公立中学校数	7校
公立中学校生徒数	約1,100人
部活動数 (文化部活動のみ)	12部活
地域クラブ活動数	4クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

【現状】

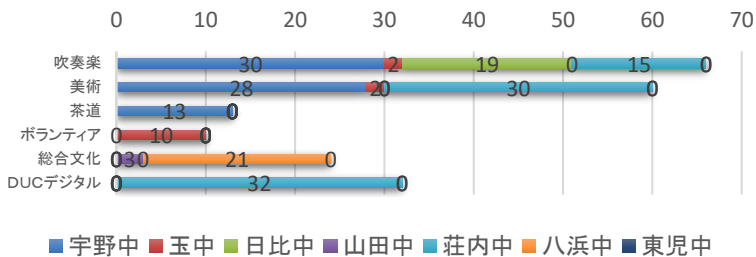
(文化部)・吹奏楽 ・美術 ・茶道 ・ボランティア ・総合文化 ・DUCデジタル
 (合同)・吹奏楽(市内4校)
 (休日)・吹奏楽

- ・吹奏楽は市内4校が合同で練習する機会があり、休日の部活動も実施している。
- ・他の部活動は、休日の活動がなく、美術は3校、茶道と総合文化は2校、ボランティアとDUCデジタルは、1校となっており、文化部が設置されていない中学校が1校ある。

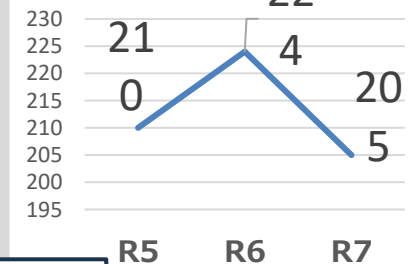
【課題】

- ・吹奏楽以外の文化芸術活動の機会提供の方法
- ・教員、保護者、生徒への説明 ・受益者負担額の検討 ・会場確保、生徒輸送手段の確保
- ・生活困窮世帯への経済的支援スキーム ・指導者の確保と配置
- ・休日の部活動の地域クラブ活動の開始 等

令和7年度 文化部別部員数



文化部の部員数

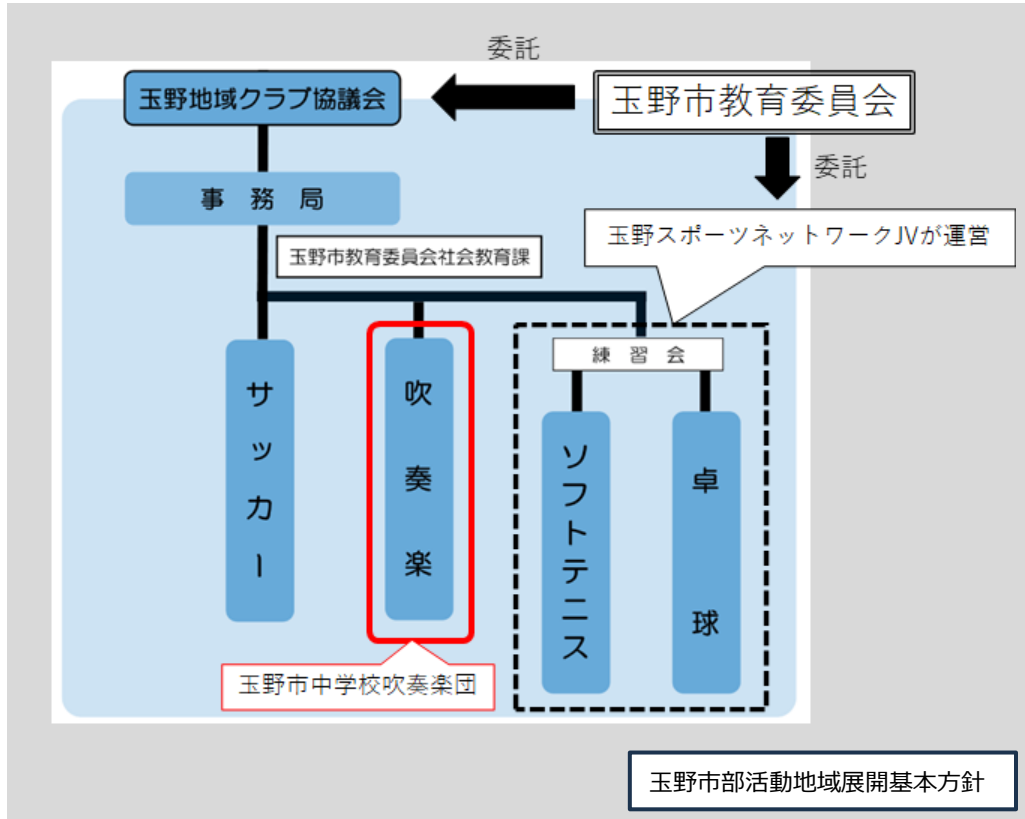


令和5～7年度 玉野市部活動調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

●教育委員会（社会教育課）

・計画 ・立案 ・連絡調整 ・周知 ・実行

年間の事業スケジュール

- 令和7年4月～ ・玉野地域クラブ協議会 設立
- 令和7年6月 ・中学校校長会 ヒアリング
- 令和7年7月 ・玉野地域クラブ協議会第1回役員会
- 令和7年11月 ・中学校部活動顧問 意見交換会
- 令和7年12月 ・玉野地域クラブ協議会第2回役員会

【実証事業：玉野市中学校吹奏楽団】

- 令和7年 5月17日 練習（玉野市立宇野中学校）
- 令和7年 6月 7日 練習（玉野市立宇野中学校）
- 令和7年 6月14日 岡山県中学校吹奏楽祭（倉敷市民会館）
- 令和7年10月18日 練習（玉野市立宇野中学校）
- 令和7年11月 3日 練習（玉野市立宇野中学校）
- 令和7年12月 6日 練習（玉野市立宇野中学校）
- 令和7年12月14日 玉野吹奏楽フェスティバル
- 令和8年 3月20日（予定）コンサート（ショッピングモールメルカ）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1 クラブ（4 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0 クラブ	
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
玉野市中学校吹奏楽団	玉野地域クラブ協議会	吹奏楽	・休日 8回	・9時～12時	・1年：24人 ・2年：25人 ・3年：23人	・隔月1回程度	5 人	1 人 (内、兼務無)	600円/年 または 1,200円/年	部活動 または 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

第30回玉野吹奏楽フェスティバル

■日 時／令和7年12月14日（日）開場13時 開演13時半 終演15時40分

■場 所／玉野市立日比中学校 体育館

■出演団体／市内3中学校、市外1中学校、市内3高校
玉野ウインドオーケストラ（合計8団体）

（中高内訳：灘崎中学校、宇野中学校、日比中学校、荘内中学校、玉野高等学校、玉野光南高等学校、玉野商工高等学校）

■出演者数／137名

■来場者数／278名

■主催／市民コンサート実行委員会

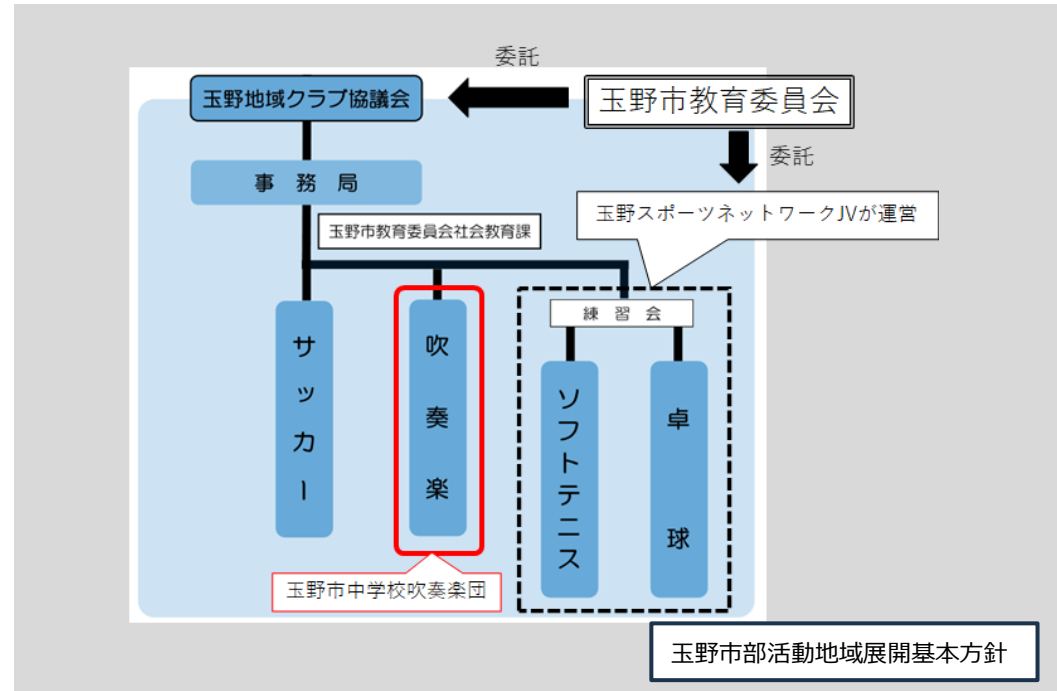
2.実証内容と成果

主な取組例

●玉野市中学校吹奏楽団 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	玉野市中学校吹奏楽団
期間と日数	吹奏楽：月1回程度
指導者の主な属性	元中学校部活動顧問 現中学校部活動顧問
活動場所	玉野市立宇野中学校
主な移動手段	生徒による自力移動 保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	1・2年：1,200円/年 3年：600円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 玉野市教育委員会社会教育課（事務局）
役割：会計担当
- 統括責任者
役割：練習計画作成、指導者・クラブ生への連絡調整、指導、大会引率 等々

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和7年度は、本課を事務局とする玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動を展開してきた。吹奏楽については、玉野市中学校吹奏楽団として、年間を通して、定期的に活動することができた。

学校単位の部活動で、演奏の依頼が個別にあることや各部活動でのコンクールへの出場が可能なことから、全ての活動を玉野市中学校吹奏楽団に移行することは、現段階では難しい。各校で演奏会への参加もあり、同時に複数の課題曲に取り組むことは、困難であるため、吹奏楽団の練習を見合わせる事となった。部活動と吹奏楽団の活動とが連動していることから、コンクールへの出場形態も含めて、部活動顧問との調整が必要である。

その他の文化メニューの実証事業については、休日に活動を行う文化部がないこともあるが、着手することができなかった。

令和8年度は、『玉野市部活動地域展開基本方針』を元に、玉野地域クラブ運営委託先の民間事業者との連携を強化し、地域クラブ活動の拡大を図りたい。

●成果の評価

【玉野地域クラブ協議会について】

運営団体として、吹奏楽については、統括することができたが、他の文化メニューについて、実施体制を計画、実行することができなかった。

【『玉野市部活動地域展開基本方針』について】

玉野地域クラブ協議会役員会を通して、本基本方針を策定することができた。本計画に則って事業を進めていきたい。

【実証事業について】

月1回程度の練習会を計画していたが、計画通りの練習回数を確保することができなかった。会場が1カ所になるため、生徒の移動に加えて、楽器の運搬が大きな課題である。

【人材バンクについて】

指導者を確保するために、人材バンク設置要綱を定めることができた。本要綱に基づいて、指導者を募集し、人材を確保していきたい。

●今後に向けて

令和8年度からは、玉野地域クラブ運営委託事業を民間事業者に委託して、部活動地域展開事業を進めていく。そのためには、学校と事業受託業者と本課との調整を大事にしていきたい。

地域クラブ活動の拡大のために、玉野地域クラブ運営委託先の民間事業者との協働を通して、吹奏楽以外の文化メニューについての実施体制の整備を進めていきたい。

その中で、玉野地域クラブを持続可能な団体として、運営体制を構築していきたい。

2.実証内容と成果③

参考資料



【全体練習】



【パート練習】



【練習後の風景：他校生徒とのふれあい】



【12/14 玉野吹奏楽フェスティバル【日比中学校】】

2.実証内容と成果④

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

学識者、学校関係者、スポーツ・文化芸術団体、首長部局、教育委員会を委員とする玉野市部活動地域移行検討委員会を設置。令和8年度からの休日の地域移行を目指すことを決定。

令和5年度

検討委員会設置、検討開始

実証事業実施

軟式野球、陸上競技、バスケットボール等の種目において実証事業。外部指導者による指導や部活動顧問による指導を実施。小学5・6年生、中学1・2年生対象。教職員、生徒、保護者、市民に、令和8年度からの休日の地域移行をアナウンス。

令和6年度

民間による玉野地域クラブ運営委託事業を展開するために、関係団体と調整開始。令和7年度を準備期間とし、令和8年度からの委託を目指す。令和7年度は、本課が事務局を担い、クラブの前段の任意団体を設立することを決定。

令和6年度

運営団体の選定

令和7年度の本課が事務局を担う、任意団体による地域移行の取り組みを推進するにあたり、各校長、顧問との調整を行う。平日は、部活動、休日は、地域クラブという形で並走することになるので、大会出場や活動日時について、現場の理解を得るための調整を開始。

令和7年度

任意団体による活動の開始

玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動を開始。文化メニューは、吹奏楽。運営は、活動内容等の実務については、指導者、会計事務については、本課が担当。また、玉野地域クラブ協議会において、『玉野市部活動地域展開基本方針』を策定。令和8年度からの運営委託先と年間を通して、協議。

玉野地域クラブ協議会による地域クラブ活動の開始

令和8年度

玉野地域クラブ運営委託事業の開始。地域クラブ活動の円滑な運営を維持しつつ、地域クラブ活動を展開する文化メニューを増やすため、関係団体、関係者との協議を進める。

令和8年度

玉野地域クラブによる地域クラブ活動の拡大

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県総社市

自治体名：岡山県総社市

担当課名：総社市教育委員会部活動改革推進室

電話番号：0866-92-8392

1.自治体の基本情報

必須記載ページ

基本情報

面積	総面積211.9km ²
人口	69,647人
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	1,985人
部活動数 (運動部活動のみ)	46部活
地域クラブ活動数	3クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市では、令和4年度に行われた「子ども議会」での生徒からの「現在の学校部活動から大きく変わることには不安がある」といった意見や生徒アンケートの結果から休日と同じ種目の活動に参加したい生徒が多いことや、これまでの推進協議会での協議内容を踏まえ、部活動の教育的意義の継承に重きを置いた自治体運営型の地域クラブを設置し、まずは休日の部活動を地域クラブ活動へ移行することを目指し、さまざまな取組を行っている。

令和5年度は、小規模校2校の学校部活動を合同で活動することから始め、指導者の確保と生徒、保護者の理解を得られたバスケットボール部の活動を地域クラブ活動として実施した。また、令和6年度から拠点校制度を採り入れ、地域クラブ化への足掛かりとした。

地域展開を推進するために、令和4年10月から本市独自の指導者登録制度で指導者の確保を継続しており、登録者数は増加しているが、持続可能なクラブとするためのクラブの柱となる地域人材が確保できていないことが課題である。また、今後地域クラブ数の増加に伴って運営等の経費増加が予想されるが、持続可能な運営体制構築のためにも財源確保の方策が大きな課題である。

学校名\年度	令和8年度	令和11年度	令和14年度	令和17年度
大規模校A	906人	952人	941人	916人
大規模校B	809人	830人	775人	746人
小規模校C	227人	160人	145人	99人
小規模校D	64人	50人	45人	20人
計	2,006人	1,992人	1,906人	1,781人

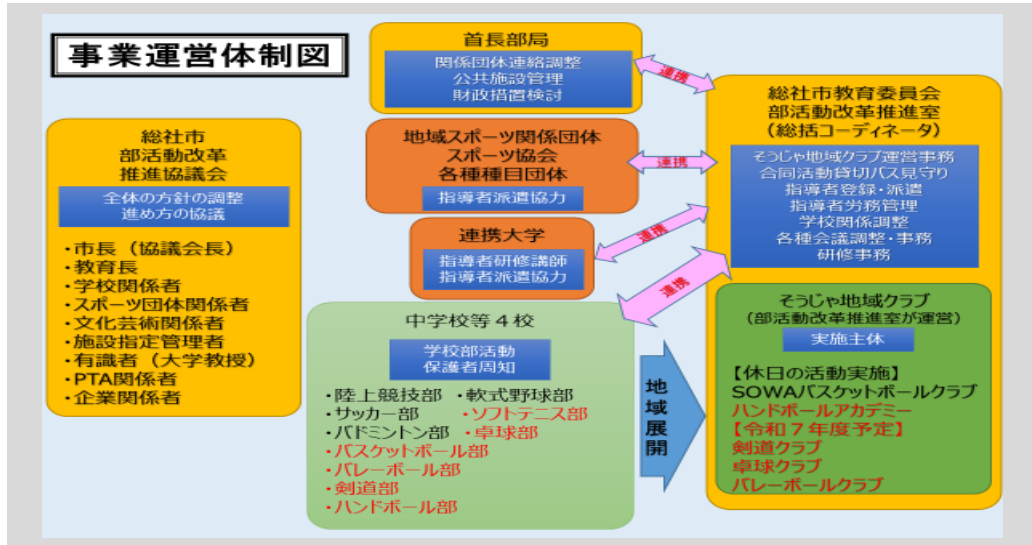
【総社市内中学校等の生徒数の推移】 (出生数参考)

2.実証内容と成果

必須記載ページ

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（部活動改革推進室）

- ・部活動地域移行の企画立案
- ・文化スポーツ団体、大学、学校との連絡調整
- ・教職員と意見交換、生徒へのアンケート等の実施
- ・運営団体の事務、指導者の登録・派遣、労務管理

◎首長部局（文化スポーツ部）

- ・文化スポーツ団体との連絡調整
- ・公共施設管理
- ・財政措置検討

年間の事業スケジュール

	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業地域クラブ活動実施（ハンドボール） ・地域指導者配置前研修 ・商工会議所説明 ・スポーツ関係団体総会参加（説明） ・地域クラブ入会事務及び保険加入事務
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校部活動担当者会 ・地域クラブ（バスケットボール）総会参加
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の地域クラブ活動について意見交換（通年で適宜実施）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動アンケート実施（生徒、教員、保護者） ・第2回学校部活動担当者会 ・令和7年度第1回総社市部活動改革推進協議会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修実施（オンライン）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修実施（実技講習） ・実証事業地域クラブ実施（剣道） ・第3回学校部活動担当者会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第1回部会実施 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第2回部会実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回学校部活動担当者会 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第3回部会実施 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第4回部会実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第5回部会実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回学校部活動担当者会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度第2回総社市部活動改革推進協議会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ入退会事務及び保険加入事務

を削除

2.実証内容と成果

必須記載ページ

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（8 部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0 クラブ
全体の指導者数	20 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
SOWA バスケットボールクラブ	自治体運営型	バスケットボール	・平日 16 回 ・休日 41 回	休日 午前中	1年生: 2年生: 3年生:	令和5年 10月1日～	3 人	3 人	無料	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
そうじゃ ハンドボールアカデミー	自治体運営型	ハンドボール	・平日 29 回 ・休日 41 回	平日 17:30～ 休日 午前中	1年生: 2年生: 3年生:	令和7年 5月31日～	5 人	3 人	無料	中体連：部活動 その他：部活動
そうじゃ 剣道クラブ	自治体運営型	剣道	・平日 0 回 ・休日 5 回	休日 午前中	1年生: 2年生: 3年生:	令和7年 9月13日～	13 人	3 人	無料	中体連：部活動 その他：部活動

クラブ活動

ください。

2.実証内容と成果

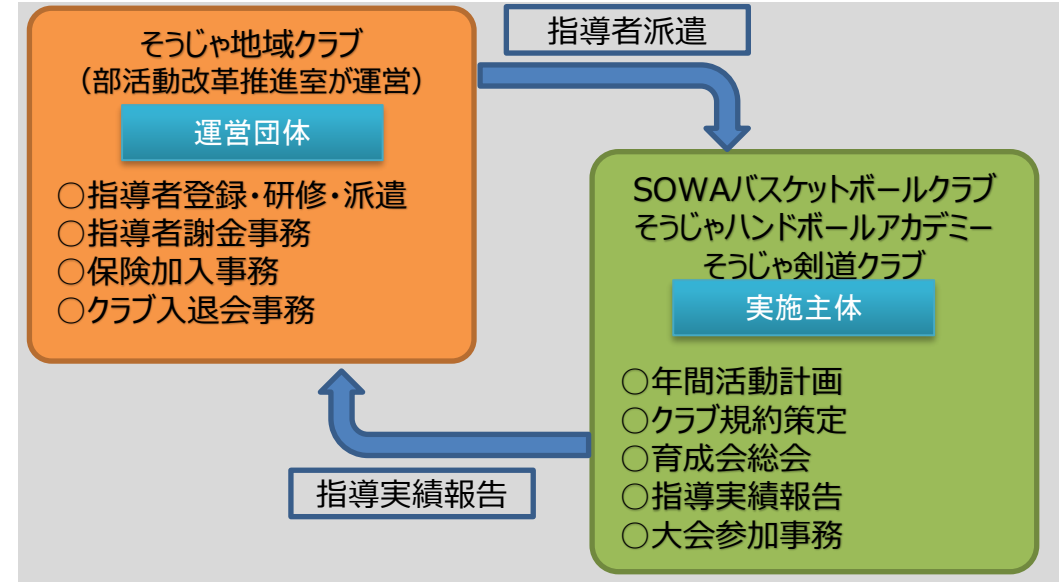
必須記載ページ

主な取組例

●そうじゃ地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール ハンドボール 剣道
運営団体名	そうじゃ地域クラブ
期間と日数	バスケットボール：月4回程度 ハンドボール：月4回程度 剣道：月1回程度
指導者の主な属性	総社市地域部活動指導者名簿に登録した指導者（退職教員、会社員、兼職教員）
活動場所	学校施設 市の体育施設
主な移動手段	バスケットボール：貸切バス その他：各自
1人あたりの参加会費等（年額）	徴収していない
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
 - 役割：指導者派遣、指導者研修、謝金支払いや保険加入事務等を行う
- 各クラブ責任者
 - 役割：運営団体へ指導者の勤怠管理及び報告、活動計画の提出を行う
- 主任指導者 2～3名
 - 役割：活動内容を決め、指導者間の共有を行う
 - 現場責任者

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

◇実施主体の整備

拠点校部活動を実施している種目について、休日の地域クラブ活動を実施

◇関係者との連絡調整

総社市部活動改革推進協議会を実施

取組の成果

◇拠点校部活動参加制度を実施している「ハンドボール」と「剣道」について地域クラブ活動を実施。

○ハンドボール・・・週休日、祝日及び金曜日の放課後に実施。

○剣道・・・2校に設置されている剣道部を1つの団体にまとめ、月に1回土曜日の活動を地域クラブ活動として実施。指導者派遣について剣道連盟総社支部と連携。

令和5年度から開始したバスケットボールを含め、指導者には指導を希望する教師が兼職兼業の許可を得て従事した。教育委員会での兼職兼業の許可もスムーズに進めることができた。

◇総社市部活動改革推進協議会を実施

令和7年度から保護者代表2名と創業サポート企業から1名、退職教員1名を委員に加えて協議を実施した。今年度は、令和8年度以降の推進計画策定に向け、部会の実施回数を増やし、貴重な意見をいただきながら検討を進めることができた。

今後の取組における課題

◇事務作業に割かれる時間が増加

実施主体の増加に伴い、参加者や指導者も増加することから、活動報告等の確認や報告内容のミスの修正など事務作業に割かれる時間が増加した。

◇活動に参加する指導者の調整

剣道では、関連する指導者が15名おり、指導者により、派遣時間が異なるため、今年度は活動に参加する指導者の調整を事務局が行ったが、これにもかなりの時間が割かれる結果となった。

課題への対応方針

◇事務作業の効率化とDX化

デジタルデータで管理できるシステム構築やアプリの活動を検討

◇実施主体の経営意識の醸成

実施主体の自主運営意識を向上させるため、経営をサポートするコーディネーターを配置することを検討する。また、指導者配置時間の配当方法を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

取組実施自治体 記載ページ

体の整備
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

◇指導者の質の保障

本市と連携協定を締結している一般社団法人アスリートキャリアセンターから講師を招聘し、チームマネジメントとスポーツサイエンスの2分野について研修を実施。

◇指導者の量の確保

大学連携と指導者公募について積極的な情報発信を実施。

人材バンクの人数

101名

人材バンクの年齢構成

20代	36名
30代	19名
40代	13名
50代	11名
60代以上	22名

取組の成果

<指導者の質の確保>

- ①指導者配置前研修
総社市教育委員会事務局
- ②令和7年度総社市地域クラブ指導者育成研修会を実施

<指導者の量の確保>

令和5年度末 21人登録 12人配置
 令和6年度末 60人登録 24人配置
 令和7年度 101人登録 75人配置
 (令和8年1月末現在)
 市内中学校等に設置している部活動及び地域クラブの46%の団体10種目に指導者を派遣した。

登録者属性

- 自営業
- 会社員
- 非常勤講師
- 退職教員
- 現中学校教員
- 現小学校教員

種目

令和7年度に市内中学校等に設置されている運動部活動の全種目

- ・陸上競技
- ・軟式野球
- ・バスケットボール
- ・卓球
- ・バレーボール
- ・剣道
- ・サッカー
- ・ソフトテニス
- ・ハンドボール
- ・バドミントン

資格有無

指導者の登録に、指導者としての経験年数や指導者資格取得を義務化していない。



9月7日の集合研修のようす①

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

<オンライン講義> (各回90分×3回実施)

- ◆内容：オリエンテーション (他己紹介)
地域展開の説明・研修の目的説明
正しい補強トレーニング I (コアトレ)
成長する組織づくりと実例
障害のある方への指導のポイント
準備運動メソッド導入

◆講師：原 晋氏 (青山学院大学陸上競技部監督) 他2名

<実技講習 (集合研修)> 9:30~17:00

- ◆内容
午前の部 準備運動メソッド、疲労回復メソッド (講義・演習)
午後の部 成長する組織づくりと実例 (講義・演習)
正しい補強トレーニング I・II (講義・演習)

◆講師：青山学院大学陸上競技部トレーナー
アスリートキャリアセンター職員

指導者研修の参加実績

- ・開催日： オンライン講義：8月19日、22日、29日
実技講習 9月7日
- ・参加人数： 18人
- ・参加者： 地域部活動指導員など希望者
(市が派遣している運動部活動の指導者は悉皆とした)

指導者研修受講者の声

- 非常に満足ではあるが、講師の方や他の指導者の方達と現場の本音や理想と現実の違いといったところを話してみたかったです。
- 自分では考えられない指導やトレーニングを知ることができました。
- 組織マネジメント分野、スポーツサイエンス分野ともに、詳しく説明が受けることができよかったです。
- 実技講習では、座学と実技の場所が同じであったので毎回移動することなく画面を見ながら実際に活動でき、とてもわかりやすかったです。
- 種目専門の研修だけでは学ぶことができないような内容がたくさんあり参加して良かったです。
- すぐに自チームのトレーニングに取り入れました。



9月7日の集合研修のようす②

セラー、

の実施

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

◇市内企業との連携

市内企業との連携について、事業支援、創業、まちづくりなどのサポートをする事業所（S-スタ）と意見交換を実施。

◇教職員の理解促進

市内の中学校等を訪問し、活動の状況を把握するとともに、地域展開の進捗状況等について説明、意見交換を実施。

◇総合型地域スポーツクラブとの連携強化

総合型地域スポーツクラブのマネージャーと指導者派遣について意見交換を実施

取組の成果

◇市内事業所（S-スタ）との意見交換

意見交換をとおして、本市のスポーツ環境構築に関する強みや弱みを分析し、令和8年度以降の推進計画策定に活かすことができた。また、事業所の方を推進協議会委員に委嘱し、協議会で経営、まちづくりの視点について意見をいただくことで、各委員の視野が広がった。

◇学校訪問

令和6年度の取組から、地域展開について理解を深めた教職員が増加していた。今年度の訪問での意見交換では、教職員から指導者の紹介や地域クラブの活動形態についてアイデアの提供があった。

今後の取組における課題

◇地域で中学生年代のスポーツ環境を支えるという意識の醸成

実際に意見交換に伺ったが、学校部活動を地域へというイメージを持たれている団体が多いと感じている。国が示しているように、部活動改革を機に中学校等の生徒のみならず、すべての人々のスポーツ・文化芸術活動の充実につなげていくというイメージをもって連携体制を構築していくことが課題である。

課題への対応方針

◇丁寧な説明の実施

地元の関係団体、大学、企業等へ地域展開について丁寧な説明を行う。その際、本市の部活動改革、地域展開について理解の深いコーディネーターを配置すること検討することが考えられる。配置するコーディネーターは、将来的に認定地域クラブの運営を担うガバナンス組織でのマネージャーを担うことも見据えた人材が望ましいと考えられる。

取組内容

●取組項目名 工：面的・広域的な取組

取組事項

- ◇総社市部活動改革推進協議会で広報活動についての意見交換
推進協議会の部会で広報活動の媒体、内容について意見交換を実施
- ◇学校やスポーツ関係団体関係者への説明会
スポーツ関係団体の総会等で市の取組について説明を実施

取組の成果

- ◇市のホームページを活用した広報活動
市のホームページに「そうじゃ地域クラブ」に関するページを追加し、学校連絡用メールを利用して、小学校高学年及び中学校に在籍する児童生徒の保護者へ周知した。
- ◇スポーツ団体関係者への説明
市のバスケットボール協会の総会への参加及び総社地区剣道連盟所属指導者への説明を実施した結果、剣道連盟所属の10名の方が新たに指導者登録をしてくださった。剣道では、指導者が確保できたので地域クラブ活動を実施することができた。

今後の取組における課題

- ◇推進協議会
推進協議会の委員から、ホームページを活用しての広報活動は有効であるという意見がある一方で、地域展開に関係がある家庭が知りたい内容についてわかりやすくしていく必要があるという意見もあった。また、将来的には、近隣自治体の生徒が認定地域クラブ活動に参加できることも必要なのではないかと意見があった。

課題への対応方針

広報活動について、対象を明確にし、必要な情報を適切なタイミングで発信していきたいと考えている。引き続き、推進協議会の部会で内容等について検討する形で進めていきたい。

実践的な指導方法を学ぶ



体を動かし正しい動作を確認

9月7日、チュッピーホールで市地域クラブ指導者育成研修会が開催されました。市内の学校教員や地域クラブの外部指導者など18人が参加。安全な運動指導と組織運営について理論と実践を交えた指導方法を学んでいました。

広報そうじゃを活用した広報活動
2025年10月号

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ◇剣道において地域クラブ活動の多様な活動形態を検討・実施
活動の頻度や形態について関係指導者で意見交換をしたうえで地域クラブ活動を実施
- ◇ハンドボールにおいて平日の活動形態を検討・実施

取組の成果

- ◇剣道の活動形態
2校に設置されている剣道部の休日の活動を地域クラブとして実施した。学校部活動顧問、連盟指導者の代表と意見交換を行い、月に1回、合同の活動を実施することとした。活動後は、参加生徒を対象にアンケートを実施し、満足度や次回の活動で指導者に聞きたいポイントを調査した。活動の満足度は平均で90%以上が肯定的なものとなっている。
- ◇ハンドボールの平日の取組
拠点校部活動を実施しているハンドボール部の顧問、地域指導者で意見交換を行い、金曜日の学校部活動を試験的に地域クラブで実施することができた。希望する生徒が参加したが、学校部活動に所属しているほぼ全員が申し込みをし、平均で約75%の生徒が参加した。また、地域で小学生対象に指導をしている指導者と意見交換をすることで、その指導者が活動に参加してくださることがあった。

今後の取組における課題

- ◇会場確保
剣道の地域クラブ活動では、市の武道館を活動場所として実施した。また、ハンドボールの地域クラブでは、学校施設開放制度を利用して小学校の体育館を利用した。休日等に確実に活動の場所を確保できるよう優先利用な制度や、施設の利用料の減免措置などの制度等の見直しが必要である。
- ◇参加対象
現在、地域クラブの参加対象は市内中学校等の在籍生徒としているが、その種目の部活動に所属している生徒のみが参加している状況である。複数種目の参加や、他のクラブで活動している生徒等の参加についても検討が必要である。

課題への対応方針

学校施設開放事業を所管する教育委員会や事務を所管している首長部局と連携し、地域クラブ活動での学校施設や市の公共施設の優先利用について協議を実施する。また、参加対象について推進協議会や中学校等の学校部活動担当者等と意見交換を実施する。



そうじゃ剣道クラブ活動のようす

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ◇地域クラブ運営に係る費用について、参加者の自己負担と公的負担のバランスを検討
- ◇経済的困窮世帯への支援のスキームについて推進協議会で検討

取組の成果

- ◇地域クラブ運営費用の参加者の自己負担と公的負担のバランス
地域クラブの運営費用について、推進協議会の進捗部会で意見交換を実施した。部会に保護者の代表委員を加え、意見を聞くことができた。また、財源確保には、地域企業がスポンサーになりやすくする仕組みを検討することが必要だという意見をいただくことができた。
- ◇経済的困窮世帯への支援のスキーム
推進協議会の進捗部会において、参加者の自己負担と同時に支援について検討が必要だという意見をいただいたが、自治体運営型で地域展開を推進していることで地域展開を実施した種目と実施しなかった種目の公平性の観点から、具体的な内容について意見交換をするに至らなかった。

今後の取組における課題

- ◇保護者の理解・協力意識の醸成
引き続き、保護者代表を含めた推進協議会での意見交換を実施するとともに、保護者の理解・協力意識をどのようにして醸成していくのか見当が必要である。
- ◇経済的困窮世帯への支援
国や県の支援体制の確立。

課題への対応方針

- 自己負担が妥当であると判断できる活動の提供が重要と考えられる。そのため、まずは安全・安心な活動環境の整備だけでなく活動内容の充実も図る必要があるため、先行して実施している種目の実施主体とのコミュニケーションや参加生徒の感想などを分析に努めたい。
- また、経済的困窮世帯への支援については、国や県の支援策が不可欠だと考えるので、様々な手段で要望をしていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では、学校における部活動の運営を地域と連携しながら支え、子ども一人一人がスポーツ活動を選択でき、生涯にわたって親しむことができる環境を整えることを主目的として本事業を実施しました。今年度は地域クラブのモデルケースを拡充することを重点として取り組み、部活動2種目4団体を2つの地域クラブ活動として実施することができました。

剣道クラブで、活動頻度を月に1回とし、地域指導者の協力を得ながら実施できたことは、新たに地域クラブ活動へ展開する種目でも取り掛かりやすい活動形態となったと感じています。また、拠点校部活動からの地域展開及び平日の学校部活動の一部を地域クラブ活動として行うモデルケースとしてハンドボールアカデミーを実施できました。これらの実証事例をもとに、次年度は地域クラブの種目拡充や活動形態の更なる工夫を実施し、多様なニーズに対応できる体制づくりを目指してきたいと思います。

種目や地域クラブ実施主体の増加の一方で、指導者労務管理や謝金等の事務処理が増加しています。これらを正確かつスムーズに処理するための体制やシステムの構築が今後の課題となっています。

●成果の評価

本市では、市長や財政担当課の地域展開に向けた理解や財政面の強力な支援もあり、ゆるやかではあるが着実に地域展開を進めることができています。

実証事業2年目を迎え、休日の学校部活動を地域クラブ活動として実施するまでのプロセスとしていくつかのケースを経験できたことは大きな成果であると考えています。あらためて、関係者（生徒・保護者・学校部活動顧問・地域指導者）への丁寧な説明による協力体制の構築の重要性に気づかされました。2年間で得たスタートアップまでのプロセスをもとに、地域クラブの種目の拡充や活動内容の充実を図っていきたいと考えています。

●今後に向けて

部活動の地域展開をとおして、「人」「知恵」「資源」が地域内で循環する持続可能な社会の仕組みを作りたいと考えています。

特に「持続可能性」と「まちづくり」の視点を取り入れながら取組を進めていきたいと考えています。例えば、持続可能な運営体制の構築、学校・行政・地域・企業が連携した、こどもが夢をもてるまちづくりの実現などを目指します。推進協議会で意見交換を重ねながら、こどもだけでなく地域の大人も含めたすべての関係者のウェルビーイングの向上につながる取組となるよう努めてまいります。

参考資料

写真

※何の様子かわかるように
キャプションを挿入すること

【推進協議会】



【バスケ活動写真】



【剣道活動写真】



【ハンド活動写真】

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討委員会設置、検討開始

子ども議会実施、指導者の公募及び選定

令和5年

専門部署を設置、協議会設置、学校現場や関連団体との協議

部活動の合同での活動実施、地域指導者の派遣、地域クラブ活動の試行

令和6年

地域クラブ活動の開始
地域クラブ活動種目の拡充検討

令和7年

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

市内中学校等に在籍する生徒

●実施内容

令和4年度に中学生の生の意見を聞くために市長、教育長を含む市の幹部と子ども議会を実施。同時に各中学校でも生徒向け説明会を実施。

令和5年度以降は地域クラブ活動へ試行する場合に保護者同席での説明会を実施。

●工夫した点

地域クラブ活動への意向に関する説明会では、学校部活動顧問にも参加していただき全体での説明後に言いにくい不安なことや疑問を顧問をととして伝えてもらうことができるようにした。

●ステークホルダー

中学校部活動顧問

●実施内容

令和5年度から4月上旬に全職員を対象に総社市の取組について説明会を実施。

各中学校等の部活同担当者を対象に年間6回程度（各回40分程度）で説明会を実施。市内中学校等の学校部活動顧問との意見交換を種目別で実施。

●工夫した点

説明用の資料は事前に配付し、意見や感想を出しやすい状況設定を心掛けた。
部活同担当者会では、web会議システムを活用し移動時間を削減した。
種目別の学校部活動顧問との意見交換では、種目としての地域展開の方向性がよいのか意見を聴く姿勢を大切にした。

●ステークホルダー

市内中学校等に在籍する生徒の保護者

●実施内容

市内中学校等で実施される参観日などで多くの保護者が集まる機会を利用して説明会を実施。

学校部活動から地域クラブ活動へ移行するタイミングで説明会を実施。

●工夫した点

説明会の実施について、学校のメール送信システムを利用して周知をした。
地域クラブへ移行するタイミングでの説明会では、子どもと一緒に参加してもらい、保護者からも子どもの意見を聞くことができるよう心掛けた。

3.今後の方向性

必須記載ページ

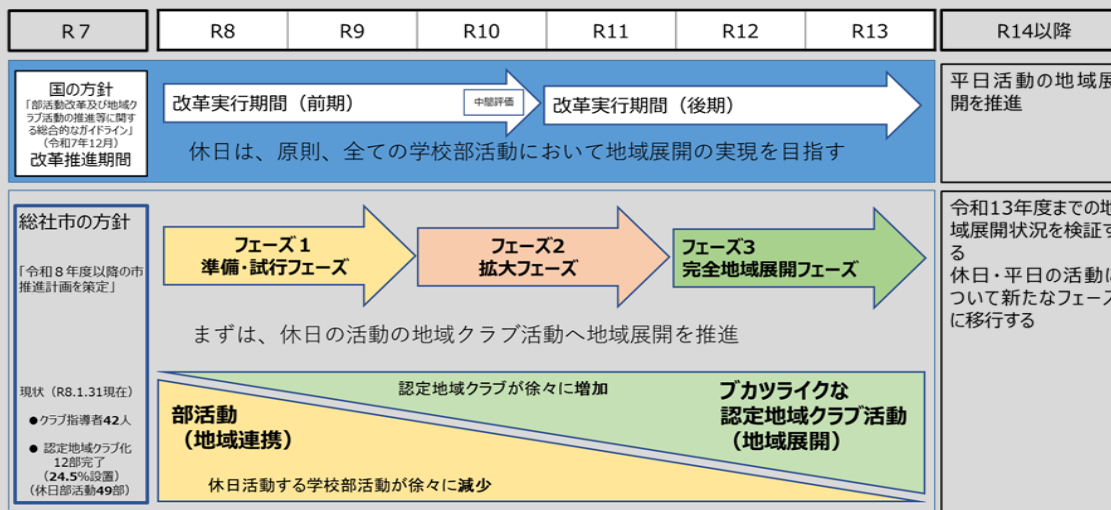
地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

総社市立中学校・義務教育学校 部活動改革推進計画(令和8年度～令和13年度)総社市部活動地域展開等のスケジュール

国が新たなガイドラインや最終とりまとめで示した部活動の地域展開(地域移行)のスケジュールは、令和8年度から6年間を「改革実行期間」と位置づけ、この期間内に休日の部活動の地域展開を原則として実現することを目指すものです。
しかしながら、本市では急激な環境の変化を緩和し、スムーズな地域展開を図るため、令和8年度から令和13年度までの6年間を次の3段階のフェーズに割り、段階的な地域展開により推進を図ることとします。

- 【令和8年度以降の部活動改革の基本方針】
- (1) 子どもが将来にわたリスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整備する
 - (2) 指導者の確保を含む運営体制の充実を図る
 - (3) 学校部活動の教育的意義を継承、発展させた地域クラブ活動の充実を図る
 - (4) 持続可能な運営費用を確保し、すべての指導者に対する適切な処遇を確保する

- そうじゃ地域クラブの理念
- 生徒のスポーツ・文化芸術活動を、学校、行政、地域が協力して支え、持続的に活動ができる環境を提供する。
 - 個々の生徒のニーズに応じて、スポーツ・文化芸術活動に、積極的に参加できる機会を提供する。
 - 部活動が担ってきた教育的意義を継承し、スポーツ・文化芸術活動を通じて、義務教育年代の青少年の健全育成を図る。
 - 学校・行政・地域・企業が連携し、子どもが夢をもてるまちづくりの実現を図る。



各フェーズでの重点取組

フェーズ1 準備・試行フェーズ(令和8～9年度)	フェーズ2 拡大フェーズ(令和10～11年度)	フェーズ3 完全地域展開フェーズ(令和12～13年度)
① 拠点校部活動の推進 合同活動、拠点校部活動を推進し、その活動を起点に認定地域クラブ化を図る。	① 認定地域クラブ拡大 準備・試行フェーズでの取組をもとに、ニーズに応じた認定地域クラブ活動への地域展開を推進する。	① 持続可能な運営体制の構築 自治体運営型の地域クラブ運営を確立したうえで、令和14年度以降の運営団体について検討する。
② 地域指導者の確保 認定地域クラブの基盤となる地域人材を確保する。	② 受益者負担と公的負担のバランス検討 持続可能で安定した地域クラブ活動の実施のため、受益者負担と公的負担の割合を検討するとともに、引き続き財源確保に努める。	② 学校部活動の在り方検討 平日の認定地域クラブ活動への地域展開を見据え、社会情勢なども加味しながら学校部活動の在り方を検討する。また、放課後の生徒主体の活動導入を検討する。
③ 財源確保策 持続可能な運営体制構築のために、企業スポンサー等からの財源確保策を検討する。	③ 学校施設開放事業の見直し 認定地域クラブの活動時間を確保するため、学校施設開放事業での優先利用要件について、他の利用者とのバランスを考慮しながら検討、策定する。	③ 財源確保策 持続可能な運営体制構築のために、さらなる財源確保策を検討する。

令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県総社市

自治体名：岡山県総社市

担当課名：総社市教育委員会部活動改革推進室

電話番号：0866-92-8392

1.自治体の基本情報

必須記載ページ

基本情報

面積	211.9 km ²
人口	69,647 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	1,985人
部活動数 (文化部活動のみ)	14 部活
地域クラブ活動数	2 クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市には全部で4つの市立中学校、義務教育学校があり、市内中心部に位置する大規模校2校は生徒数がともに800人であるのに対し、中山間部に位置する小規模校2校は生徒数がそれぞれ200人、90人である。

小規模校2校は今後10年間で全校生徒数が半減することが見込まれ、現在すでに人数不足でチームが組めない等の事態が生じていることから、合同部活動の実施や地域クラブ化等優先的に地域連携・地域移行に取り組んでいる。小規模校2校には文化部として吹奏楽部と美術部が設置されており、特に吹奏楽部については、今後生徒数減少により充実した活動が維持できなくなることが予想されている。

大規模校2校は、吹奏楽部、コーラス部、美術部、科学部等、多岐にわたる文化部が設置されており、大多数の部は部員数が充足しているが、コーラス部等一部の部では年々部員数の減少が続いており、今後の活動維持に危機感を抱いている。

学校名\年度	令和 8年度	令和 11年度	令和 14年度	令和 17年度
大規模校A	906人	952人	941人	916人
大規模校B	809人	830人	775人	746人
小規模校C	227人	160人	145人	99人
小規模校D	64人	50人	45人	20人
計	2,006人	1,992人	1,906人	1,781人

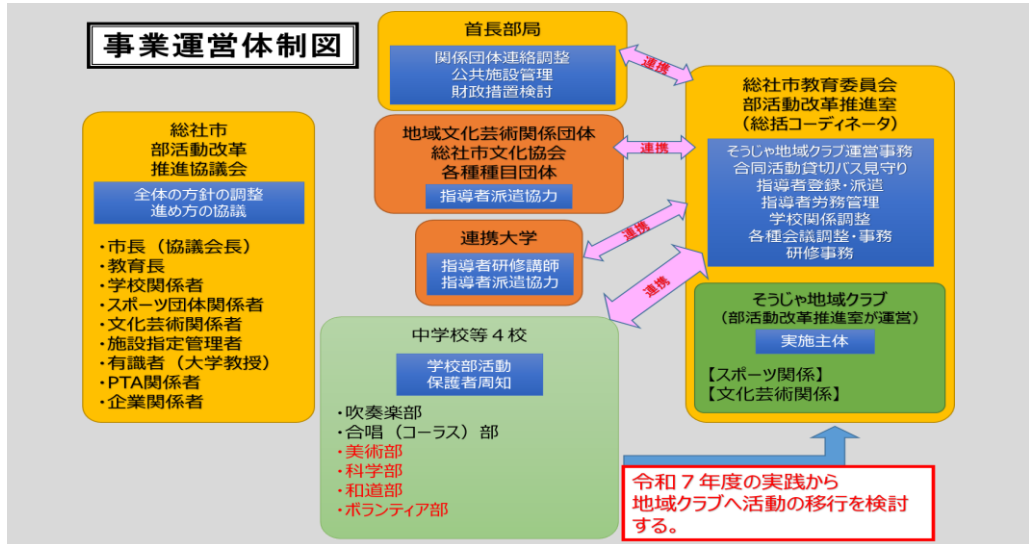
【総社市内中学校等の生徒数の推移】（出生数参考）

2.実証内容と成果

必須記載ページ

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会 (部活動改革推進室)

- ・部活動地域移行の企画立案
- ・文化スポーツ団体、大学、学校との連絡調整
- ・教職員と意見交換、生徒へのアンケート等の実施
- ・運営団体の事務、指導者の登録・派遣、労務管理

◎首長部局 (文化スポーツ部)

- ・文化スポーツ団体との連絡調整
- ・公共施設管理
- ・財政措置検討

年間の事業スケジュール

	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業地域クラブ活動実施 (合唱) ・地域指導者配置前研修 ・商工会議所説明 ・文化系関係団体総会参加 (説明) ・地域クラブ入会事務及び保険加入事務
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校部活動担当者会 ・吹奏楽地域クラブ活動意見交換 (学校、地域関係者) ・指導者研修講座派遣 (吹奏楽)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の地域クラブ活動について意見交換 (通年で適宜実施)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動アンケート実施 (生徒、教員、保護者) ・第2回学校部活動担当者会 ・令和7年度第1回総社市部活動改革推進協議会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽地域クラブ活動意見交換 (学校、地域関係者)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業地域クラブ実施 (吹奏楽1回目) ・第3回学校部活動担当者会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第1回部会実施 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第2回部会実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業地域クラブ実施 (吹奏楽2回目) ・第4回学校部活動担当者会 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第3回部会実施 ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第4回部会実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度総社市部活動改革推進協議会第5回部会実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回学校部活動担当者会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業地域クラブ実施 (吹奏楽3回目) ・令和7年度第2回総社市部活動改革推進協議会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ入退会事務及び保険加入事務

2.実証内容と成果

必須記載ページ

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2 クラブ（6 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0 クラブ	
全体の指導者数	22 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
そうじゃ合唱アカデミー	自治体運営型	合唱	・休日 39 回	休日 午前中	1年生: 2年生: 3年生:	令和7年 5月31日～	9 人	3 人	無料	学校部活動 単位
そうじゃ吹奏楽アカデミー	自治体運営型	吹奏楽	・休日 3 回	日曜日 午後	1年生: 2年生: 3年生:	令和7年 9月21日～	13 人	3 人	無料	学校部活動 単位

2.実証内容と成果

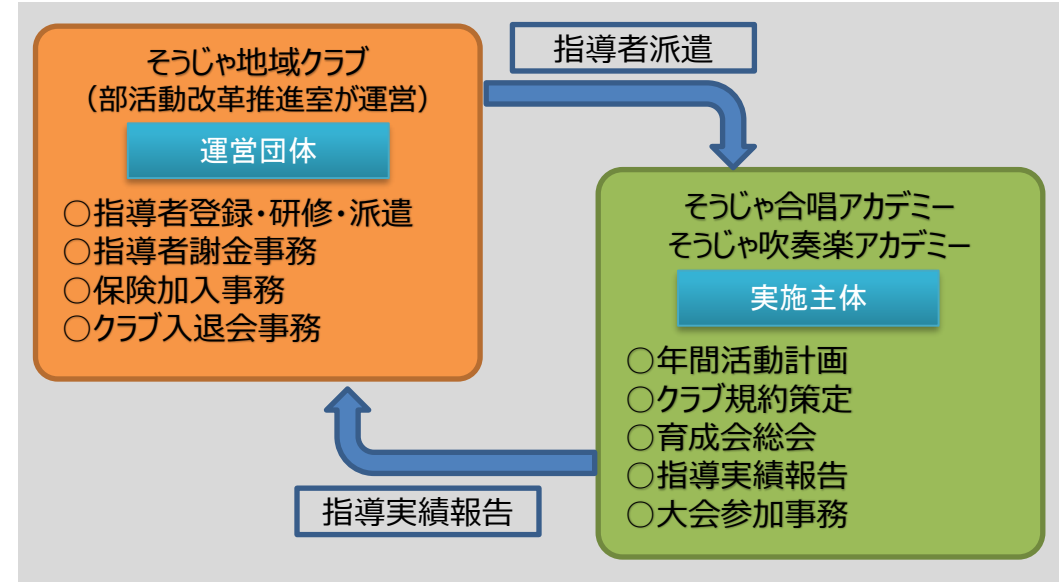
必須記載ページ

主な取組例

●そうじゃ地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽、合唱
運営団体名	そうじゃ地域クラブ
期間と日数	吹奏楽：年間3回程度 合唱：月4回程度
指導者の主な属性	総社市地域部活動指導者名簿に登録した指導者（退職教員、会社員、兼職教員）
活動場所	学校施設 市の文化施設
主な移動手段	各自で移動 徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	徴収していない
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
 - 役割：指導者派遣、指導者研修、謝金支払いや保険加入事務等を行う
- 各クラブ責任者
 - 役割：運営団体へ指導者の勤怠管理及び報告、活動計画の提出を行う
- 主任指導者 2～3名
 - 役割：活動内容を決め、指導者間の共有を行う
 - 現場責任者

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

◇実施主体の整備

大規模校 2 校で実施しているコーラス部について、休日の地域クラブ活動を実施
吹奏楽部の休日の活動を市の施設や学校施設で地域クラブ活動として実施

◇関係者との連絡調整

総社市部活動改革推進協議会を実施

取組の成果

◇コーラス部の休日の活動を地域クラブ活動で実施

○コーラス部・・・2校に設置されているコーラス部を1つの団体にまとめ、休日の活動を地域クラブ活動として実施した。活動形態について、合同で行うか、別々で行うかを指導者の判断に任せ、形態に合わせて活動場所の確保をしてもらった。

○吹奏楽部・・・市内吹奏楽部員の希望者を対象に講習会という形式で地域クラブ活動を実施した。楽器は、学校と顧問の理解を得て、学校部活動で使用しているものを参加生徒が持参し使用した。金管、木管、打楽器に分け、核になる指導者を中心に各パートごとの指導者の合計13名で指導にあたり、参加生徒に好評であった。

◇総社市部活動改革推進協議会を実施

令和7年度から保護者代表 2 名と創業サポート企業から 1 名、退職教員 1 名を委員に加えて協議を実施した。令和8年度以降の推進計画策定に向け、部会の実施回数を増やし、意見をいただきながら検討を進めることができた。

今後の取組における課題

◇事務作業に割かれる時間が増加

実施主体の増加に伴い、参加者や指導者も増加することから、活動報告等の確認や報告内容のミスの修正など事務作業に割かれる時間が増加した。

◇活動場所の調整

コーラス、吹奏楽ともに市の文化施設や学校施設を活用して実施したが、優先利用の制度がないため、活動場所の確保のための調整に苦労した。

吹奏楽では、学校や顧問の理解もあり、学校備品の楽器を使用したが、修理や消耗品にかかる費用について検討が必要である。

課題への対応方針

◇事務作業の効率化とDX化

デジタルデータで管理できるシステム構築やアプリの活動を検討

◇コーディネーターの配置

活動場所や使用する楽器等について、市内の文化関係団体と調整を行う
コーディネーターを指導者とは別に配置することを検討する。

2.実証内容と成果

取組実施自治体 記載ページ

体の整備
 オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

◇指導者の質の保障

吹奏楽については、静岡県で行われているバンドクリニックへの派遣を計画していた。

◇指導者の量の確保

大学連携と指導者公募について積極的な情報発信を実施。

人材バンクの人数

101名

人材バンクの年齢構成

20代	36名
30代	19名
40代	13名
50代	11名
60代以上	22名

取組の成果

<指導者の質の確保>

①指導者配置前研修

総社市教育委員会事務局

②バンドクリニック2025への吹奏楽指導者の派遣は、クリニックが開催されなかったため実施できなかった。

<指導者の量の確保>

令和5年度末 21人登録 12人配置

令和6年度末 60人登録 24人配置

令和7年度 101人登録 75人配置

(令和8年1月末現在)

市内中学校等に設置している部活動及び地域クラブの46%の団体10種目に指導者を派遣した。

登録者属性

自営業
 会社員
 非常勤講師
 退職教員
 現中学校教員
 現小学校教員

種目

令和7年度に市内中学校等に設置されている文化部活動の全種目

- ・吹奏楽部
- ・合唱、コーラス部
- ・美術部
- ・科学部
- ・和道部
- ・ボランティア部

資格有無

指導者の登録に、指導者としての経験年数や指導者資格取得を義務化していない。

取組の課題と対応方針

合唱の指導者は、兼職兼業の許可を得た教師がになっているが、異動が考えられるので地域の指導者と連携できる体制を構築していく必要がある。

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

◇市内企業との連携

市内企業との連携について、事業支援、創業、まちづくりなどのサポートをする事業所（S-スタ）と意見交換を実施。

◇教職員の理解促進

市内の中学校等を訪問し、活動の状況を把握するとともに、地域展開の進捗状況等について説明、意見交換を実施。

取組の成果

◇市内事業所との意見交換

意見交換をとおして、本市のスポーツ環境構築に関する強みや弱みを分析し、令和8年度以降の推進計画策定に活かすことができた。また、事業所の方を推進協議会委員に委嘱し、協議会で経営、まちづくりの視点について意見をいただくことで、各委員の視野が広がった。

◇学校訪問

令和6年度の取組から、地域展開について理解を深めた教職員が増加していた。今年度の訪問での意見交換では、教職員から指導者の紹介や地域クラブの活動形態についてアイデアの提供があった。

今後の取組における課題

◇地域で中学生年代の文化芸術活動環境を支えるという意識の醸成

実際に意見交換に伺ったが、学校部活動を地域へというイメージを持たれている団体が多いと感じている。国が示しているように、部活動改革を機に中学校等の生徒のみならず、すべての人々のスポーツ・文化芸術活動の充実につなげていくというイメージをもって連携体制を構築していくことが課題である。

課題への対応方針

◇丁寧な説明の実施

地元の関係団体、大学、企業等へ地域展開について丁寧な説明を行う。その際、本市の部活動改革、地域展開について理解の深いコーディネーターを配置すること検討することが考えられる。配置するコーディネーターは、将来的に認定地域クラブの運営を担うガバナンス組織でのマネージャーを担うことも見据えた人材が望ましいと考えられる。

取組内容

●取組項目名 Ⅰ：面的・広域的な取組

取組事項

◇総社市部活動改革推進協議会で広報活動についての意見交換
推進協議会の部会で広報活動の媒体、内容について意見交換を実施

取組の成果

◇市のホームページを活用した広報活動
市のホームページに「そうじゃ地域クラブ」に関するページを追加し、学校連絡用メールを利用して、小学校高学年及び中学校に在籍する児童生徒の保護者へ周知した。

今後の取組における課題

◇推進協議会
推進協議会の委員から、ホームページを活用しての広報活動は有効であるという意見がある一方で、地域展開に関係がある家庭が知りたい内容についてわかりやすくしていく必要があるという意見もあった。また、将来的には、近隣自治体の生徒が認定地域クラブ活動に参加できることも必要なのではないかと意見があった。

課題への対応方針

広報活動について、対象を明確にし、必要な情報を適切なタイミングで発信していきたいと考えている。引き続き、推進協議会の部会で内容等について検討する形で進めていきたい。



総社市HPでの広報

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

◇吹奏楽で講習会を実施

吹奏楽の活動について、専門的な指導ができる指導者を招聘または派遣し、個々の楽器のスキルアップを目的とした講習会を開催

◇コーラスのイベントへ参加

市内コーラス団体が主催する多世代参加型イベントに参加

取組の成果

◇吹奏楽講習会

金管、木管、打楽器に主任指導者を置き、11パートに合計12名の指導者を派遣し、9月、11月、2月に計3回実施した。

市内4中学校等から53名の生徒が参加。事前に指導者に聞きたいことをフォームで調査し、講習会当日の指導に活かした。

・満足度のアンケートでは、参加した生徒の98%が肯定的な回答だった

◇コーラスのイベント参加

市内コーラス団体と連携し、小学生から高校生、保護者等が参加するコーラスイベントに参加した。

今後の取組における課題

◇吹奏楽の活動

3回の講習会を学校施設、市役所、市の文化施設で行ったが、会場の確保が課題である。

また、使用する楽器は学校部活動で使用している楽器を借りており、万が一の破損対応や消耗品の補充などについて、クラブと学校部活動で線引きをしていく必要がある。

課題への対応方針

活動場所については、首長部局の文化芸術課と市の施設の優先利用について協議をしていき、次年度は月に1回程度の講習会を開催していく。

楽器の使用については、引き続き学校や学校部活動の顧問の協力を仰ぎつつ、破損対応や消耗品の補充の予算をクラブ運営費に盛り込むことなどを含め、どのような支援策が必要なのか協議を進めていく。

取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

◇地域クラブ運営に係る費用について、参加者の自己負担と公的負担のバランスを検討

◇経済的困窮世帯への支援のスキームについて推進協議会で検討

取組の成果

◇地域クラブ運営費用の参加者の自己負担と公的負担のバランス

地域クラブの運営費用について、推進協議会の進捗部会で意見交換を実施した。部会に保護者の代表委員を加え、意見を聞くことができた。また、財源確保には、地域企業がスポンサーになりやすくする仕組みを検討することが必要だという意見をいただくことができた。

◇経済的困窮世帯への支援のスキーム

推進協議会の進捗部会において、参加者の自己負担と同時に支援について検討が必要だという意見をいただいたが、自治体運営型で地域展開を推進していることで地域展開を実施した種目と実施しなかった種目の公平性の観点から、具体的な内容について意見交換をするに至らなかった。

今後の取組における課題

◇保護者の理解・協力意識の醸成

引き続き、保護者代表を含めた推進協議会での意見交換を実施するとともに、保護者の理解・協力意識をどのようにして醸成していくのか見当が必要である。

◇経済的困窮世帯への支援

国や県の支援体制の確立。

課題への対応方針

自己負担が妥当であると判断できる活動の提供が重要であると考えられる。そのために、まずは安全・安心な活動環境の整備だけでなく活動内容の充実も図る必要があるため、先行して実施している種目の実施主体とのコミュニケーションや参加生徒の感想などを分析に努めたい。

また、経済的困窮世帯への支援については、国や県の支援策が不可欠だと考えるので、様々な手段で要望をしていきたい。

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ◇学校施設開放事務に関係する部署で協議
地域クラブ活動が学校施設を利用する際の優先利用や利用料金の減免についてのルールを検討

取組の成果

- ◇関係部署との協議
問題意識の共有のため、市のスポーツ振興課、教育総務課、部活動改革推進室の担当者と3回協議の場をもった。

今後の取組における課題

- ◇学校施設の開放に関する規則
地域クラブ活動や、すでに休日の利用をしている既存の団体との調整に関する内容について、規則の内容を追記、変更していく必要がある。

課題への対応方針

- 既存の利用団体を含め、本市の地域展開の取組についていねいな説明や積極的な情報発信をすることで理解促進を図る。
規則については、文化活動だけでなくスポーツ活動での学校施設の利用のバランスを考えながら引き続き関係部署で協議を実施していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では、学校における部活動の運営を地域と連携しながら支え、子ども一人一人が文化芸術活動を選択でき、将来にわたって親しむことができる環境を整えることを主目的として本事業を実施しました。今年度は地域クラブのモデルケースを拡充することを重点として取り組み、部活動2種目6団体を2つの地域クラブ活動として実施することができました。

合唱アカデミーで、学校部活動2団体を1団体の地域クラブ活動として実施し、多くの地域指導者が指導者チームとしてかわりながら、多様な活動形態について試行することができました。また、吹奏楽アカデミーでは、退職教員を中心に市や関係団体の協力で課題が多いとされる吹奏楽の地域クラブ活動を実施することができました。

これらの実証事例をもとに、次年度は活動形態の更なる工夫を実施し、多様なニーズに対応できる体制づくりを目指していきたいと思えます。

しかし、種目や地域クラブ実施主体の増加の一方で、指導者の労務管理や謝金等の事務処理が増加しています。これらを正確かつスムーズに処理するための体制やシステムの構築が今後の課題となっています。

●成果の評価

本市では、市長や財政担当課の地域展開に向けた理解や財政面の強力な支援もあり、ゆるやかではあるが着実に地域展開を進めることができています。

実証事業2年目を迎え、休日の学校部活動を地域クラブ活動として実施するまでのプロセスとしていくつかのケースを経験できたことは大きな成果であると考えています。あらためて、関係者（生徒・保護者・学校部活動顧問・地域指導者）へのていねいな説明による協力・連携体制の構築の重要性に気づかされました。2年間で得たスタートアップまでのプロセスをもとに、地域クラブの種目の拡充や活動内容の充実を図っていききたいと考えています。

●今後に向けて

部活動の地域展開をとおして、「人」「知恵」「資源」が地域内で循環する持続可能な社会の仕組みを作りたいと考えています。

特に「持続可能性」と「まちづくり」の視点を取り入れながら取組を進めていきたいと考えています。例えば、持続可能な運営体制の構築、学校・行政・地域・企業が連携した、こどもが夢をもてるまちづくりの実現などを目指します。推進協議会で意見交換を重ねながら、こどもだけでなく地域の大人も含めたすべての関係者のウェルビーイングの向上につながる取組となるよう努めてまいります。

参考資料



【コーラス活動写真】



【コーラス活動写真】



【吹奏楽活動写真】



【吹奏楽活動写真】

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討委員会設置、検討開始

子ども議会実施、指導者の公募及び選定

令和5年

専門部署を設置、協議会設置、学校現場や関連団体との協議

部活動の合同での活動実施、地域指導者の派遣、地域クラブ活動の試行

令和6年

地域クラブ活動の開始
地域クラブ活動種目の拡充検討

令和7年

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

市内中学校等に在籍する生徒

●実施内容

令和4年度に中学生の生の意見を聞くために市長、教育長を含む市の幹部と子ども議会を実施。同時に各中学校でも生徒向け説明会を実施。

令和5年度以降は地域クラブ活動へ試行する場合に保護者同席での説明会を実施。

●工夫した点

地域クラブ活動への意向に関する説明会では、学校部活動顧問にも参加していただき全体での説明後に言いにくい不安なことや疑問を顧問をととして伝えてもらうことができるようにした。

●ステークホルダー

中学校部活動顧問

●実施内容

令和5年度から4月上旬に全職員を対象に総社市の取組について説明会を実施。
各中学校等の部活同担当者を対象に年間6回程度（各回40分程度）で説明会を実施。
市内中学校等の学校部活動顧問との意見交換を種目別で実施。

●工夫した点

説明用の資料は事前に配付し、意見や感想を出しやすい状況設定を心掛けた。
部活同担当者会では、web会議システムを活用し移動時間を削減した。
種目別の学校部活動顧問との意見交換では、種目としての地域展開の方向性がよいのか意見を聴く姿勢を大切にした。

●ステークホルダー

市内中学校等に在籍する生徒の保護者

●実施内容

市内中学校等で実施される参観日などで多くの保護者が集まる機会を利用して説明会を実施。
学校部活動から地域クラブ活動へ移行するタイミングで説明会を実施。

●工夫した点

説明会の実施について、学校のメール送信システムを利用して周知をした。
地域クラブへ移行するタイミングでの説明会では、子どもと一緒に参加してもらい、保護者からも子どもの意見を聞くことができるよう心掛けた。

3.今後の方向性

必須記載ページ

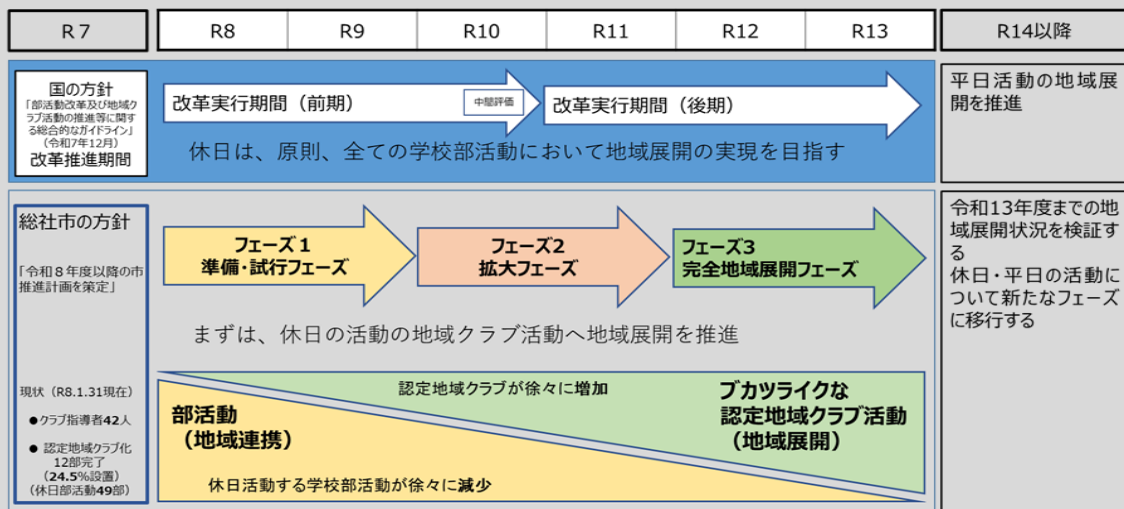
地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

総社市立中学校・義務教育学校 部活動改革推進計画(令和8年度～令和13年度)総社市部活動地域展開等のスケジュール

国が新たなガイドラインや最終とりまとめで示した部活動の地域展開(地域移行)のスケジュールは、令和8年度から6年間を「改革実行期間」と位置づけ、この期間内に休日の部活動の地域展開を原則として実現することを目指すものです。
しかしながら、本市では急激な環境の変化を緩和し、スムーズな地域展開を図るため、令和8年度から令和13年度までの6年間を次の3段階のフェーズに分割し、段階的な地域展開により推進を図ることとします。

- 【令和8年度以降の部活動改革の基本方針】
- (1) 子どもが将来にわたリスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整備する
 - (2) 指導者の確保を含む運営体制の充実を図る
 - (3) 学校部活動の教育的意義を継承、発展させた地域クラブ活動の充実を図る
 - (4) 持続可能な運営費用を確保し、すべての指導者に対する適切な処遇を確保する

- そうじゃ地域クラブの理念
- 生徒のスポーツ・文化芸術活動を、学校、行政、地域が協力して支え、持続的に活動ができる環境を提供する。
 - 個々の生徒のニーズに応じて、スポーツ・文化芸術活動に、積極的に参加できる機会を提供する。
 - 部活動が担ってきた教育的意義を継承し、スポーツ・文化芸術活動を通じて、義務教育年代の青少年の健全育成を図る。
 - 学校・行政・地域・企業が連携し、子どもが夢をもてるまちづくりの実現を図る。



各フェーズでの重点取組

フェーズ1 準備・試行フェーズ(令和8～9年度)	フェーズ2 拡大フェーズ(令和10～11年度)	フェーズ3 完全地域展開フェーズ(令和12～13年度)
① 拠点校部活動の推進 合同活動、拠点校部活動を推進し、その活動を起点に認定地域クラブ化を図る。	① 認定地域クラブ拡大 準備・試行フェーズでの取組をもとに、ニーズに応じた認定地域クラブ活動への地域展開を推進する。	① 持続可能な運営体制の構築 自治体運営型の地域クラブ運営を確立したうえで、令和14年度以降の運営団体について検討する。
② 地域指導者の確保 認定地域クラブの基盤となる地域人材を確保する。	② 受益者負担と公的負担のバランス検討 持続可能で安定した地域クラブ活動の実施のため、受益者負担と公的負担の割合を検討するとともに、引き続き財源確保に努める。	② 学校部活動の在り方検討 平日の認定地域クラブ活動への地域展開を見据え、社会情勢なども加味しながら学校部活動の在り方を検討する。また、放課後の生徒主体の活動導入を検討する。
③ 財源確保策 持続可能な運営体制構築のために、企業スポンサー等からの財源確保策を検討する。	③ 学校施設開放事業の見直し 認定地域クラブの活動時間を確保するため、学校施設開放事業での優先利用要件について、他の利用者とのバランスを考慮しながら検討、策定する。	③ 財源確保策 持続可能な運営体制構築のために、さらなる財源確保策を検討する。

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県井原市

自治体名：岡山県井原市

担当課名：教育委員会 文化スポーツ課

電話番号：0866-62-9533

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	243.54 km ²
人口	35886 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	800 人
部活動数 (運動部活動のみ)	33 部活
地域クラブ活動数	14 クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

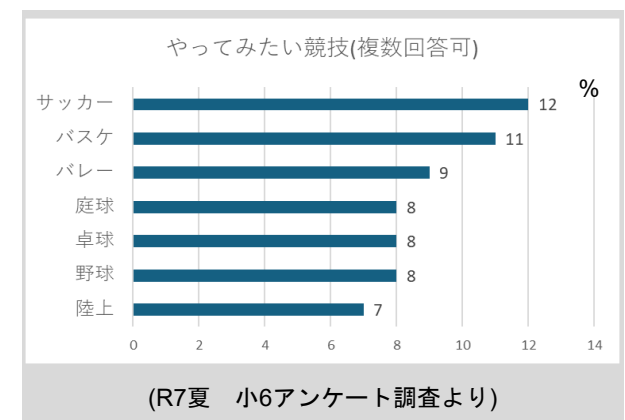
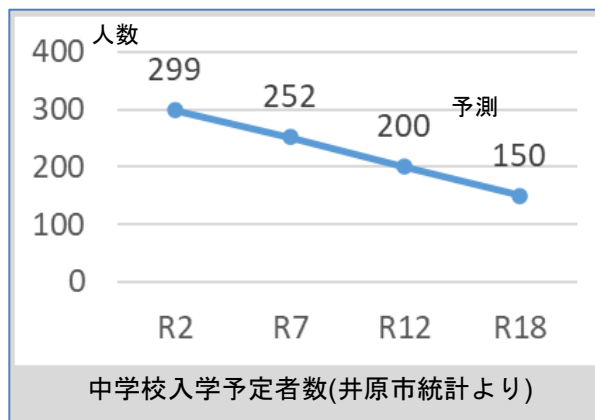
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

井原市では急速な少子化が進んでおり、市内の中学校の入学者は5年後には20%減の200人程度と予測される。現在も中学校部活動において単独で団体競技に出場できない学校が大半で、市内33の運動部の中で団体種目に単独で大会参加できたのは8団体のみとなっており、3年生が引退後の新人戦にはわずか4団体のみであった。

しかし、小学校6年生のアンケート調査によれば、やりたい競技は多種にのぼっており、子どもたちのニーズに対し部活動では対応しきれない現状である。

井原市では、子どもたちのニーズに応えるため、令和5年度から徐々に地域クラブを整備している。令和7年度5月の段階で約20%の生徒が、地域クラブ等の活動に参加している。

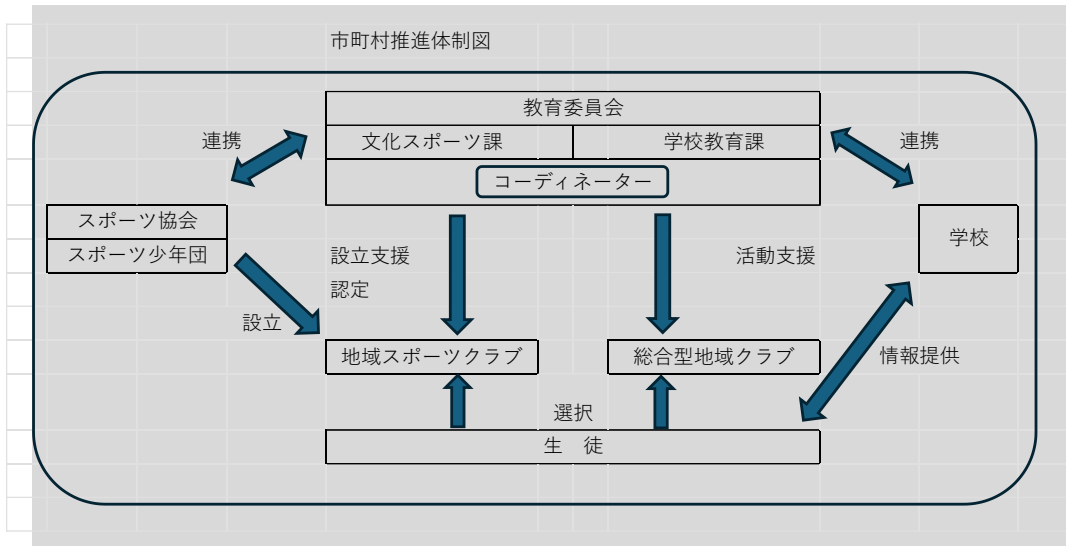
ただ、指導者不足等の影響で、従来の部活動をすべてカバーできる競技が開設できていない。また、市内の中学生だけでは人数不足の影響で開設できない競技も出てくる。今後は、近隣市町とも連携して少しでも多くの競技を選択できるような環境をつくっていきたい。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（文化スポーツ課・学校教育課）

- ・コーディネーターと連携し、各クラブ・スポーツ少年団等各種団体との調整連絡
- ・学校を通して、生徒・保護者等に情報提供

◎首長部局

◎コーディネーター

- ・各クラブ・学校・スポーツ少年団等各種団体との調整連絡

年間の事業スケジュール

- ・R7.4 今後の部活動地域展開活動計画の作成
部活動地域展開の小中学生向け啓発チラシの作成
配布
- ・R7.5 市内小中学校の体育施設開放状況調査
- ・R7.6 第1回3市2町広域連絡会開催
- ・R7.7 地域クラブの運営団体となる「井原地域クラブ」設立
～12 に向けて、地域クラブ連絡会で原案作成について検討する準備会を設立し協議を始める
- ・R7.8 市内小中学生・保護者の意識調査のためのアンケート調査の実施・集計
- ・R7.10 第2回3市2町広域連絡会開催
- ・R8.1 地域クラブ連絡会で「井原地域クラブ」会則等を承認
開設に向けての準備開始
井原市の地域展開に向けてのロードマップを、各校
校長・教職員や児童保護者向けの広報活動を
始める
- ・R8.2 第3回3市2町広域連絡会開催
- ・R8.4 「井原地域クラブ」発足

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数	14 クラブ		
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	8 クラブ（4 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	6クラブ	
全体の指導者数	79人	全体の運営スタッフ数	14 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
井原バレーボールクラブ	競技団体	バレーボール	・平日 2 回 ・休日 1 回	平日19～21 休日13～14	3年 10人 2年 3人 1年 13人	R7.4～R8.3	6 人	1 人 (内、兼務0 人)	48000 円 /年額 (など)	地域クラブ
井原陸上クラブ	競技団体	陸上競技	・平日 2 回 ・休日 1 回	平日18～20 休日19～21	3年 9人 2年 10人 1年 9人	R7.4～R8.3	11 人	1 人 (内、兼務0 人)	12000 円 /年額 (など)	地域クラブ
和道会	競技団体	空手	・平日 1 回 ・休日 1 回	19～21	2年 4人 1年 2人	R7.4～R8.3	3 人	1 人 (内、兼務0 人)	24000 円 /年額 (など)	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

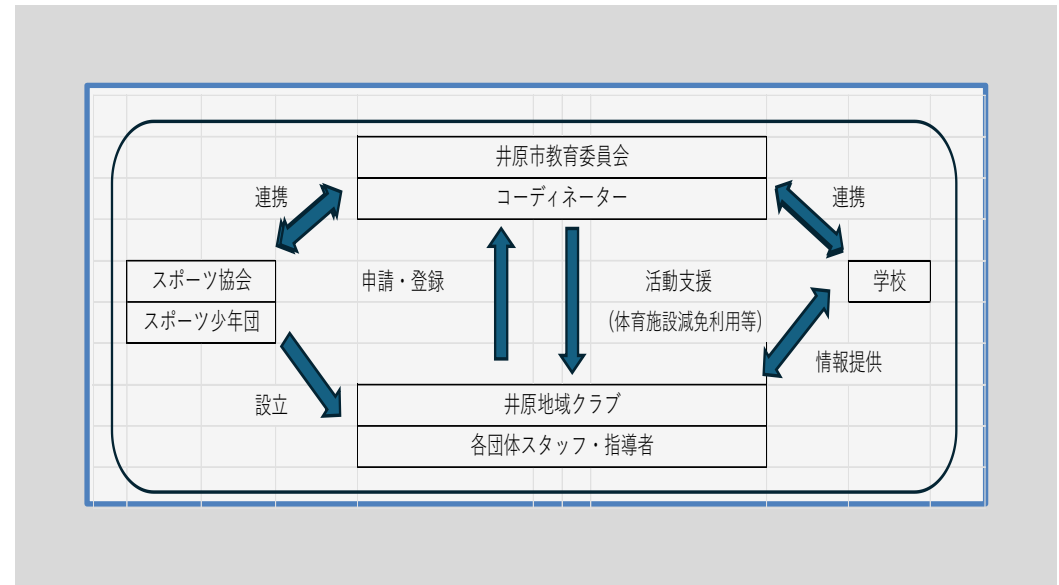
2.実証内容と成果

主な取組例

井原地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール・野球・新体操・ソフトボール 卓球・バスケットボール・柔道・剣道・空手 バドミントン・陸上競技
運営団体名	井原地域クラブ
期間と日数	バレー・野球・ソフト・バスケ・陸上・新体操 ：月12回程度 卓球・柔道・剣道・空手：月8回程度
指導者の主な属性	競技団体
活動場所	井原市内小中学校・井原運動公園他
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	500～4000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●自治体

役割：各地域クラブの登録承認し、体育施設等の減免利用の許可等

●統括責任者

役割：コーディネーターとして、地域クラブ連絡会等を開催し、要望等の取りまとめ

●各団体スタッフ・指導者

役割：各クラブ員の保険への加入や活動費の集金、活動日程の調整等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・地域展開に関する情報が欲しいという要望に応えるため、コーディネーターが中心となって児童・生徒・保護者向けの説明会を行ったり、啓発チラシを配布したりした。また、地域クラブ指導者や学校関係者にも機会を見つけて説明をした。

・今後公的支援の受け皿やクラブの認定制度の対応等のため、地域クラブの運営団体の整備が急務となっている。そこで、各地域クラブの代表者からなる準備会を立ち上げ、運営団体設立を目指した。その結果、令和8年3月末までに新たな運営団体が設立できる予定である。

取組の成果

・地域クラブについての啓発活動については、少しずつ進んでいる。

昨年まで運動部の加入率は毎年減少し43%まで減少していたが、今年度は地域クラブ加入率が12%を超え、部活動と地域クラブを合計するとスポーツ活動に参加する生徒は3年前とほぼ同等になった。

今後の取組における課題

- ・今後、地域クラブへの加入率を上げていくための課題として、中学生になってから地域クラブに入るにはハードルが高いと言った声も聞かれる。また、近年スポーツ少年団等への加入率も減少しており、小学生の段階からスポーツに取り組むことが不可欠と考えられる。そのため、来年度からは小学生向けの啓発活動を強化していきたい。
- ・令和8年4月に発足予定の運営団体と各地域クラブの連携を密にし、各地域クラブが持続可能な団体となるため、財政的支援など様々な課題を明確にし、行政等へ要望していきたい。

課題への対応方針

- ・運営団体と地域クラブの連絡会を定期的に関き、情報収集を行っていく。
- ・スポーツ少年団の広報紙を作成したり、地元ケーブルテレビとタイアップして、活動状況を広く紹介していきたい。
- ・生徒のニーズに受け皿となるクラブ創設が難しい課題等については、広域での連携等で模索していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・コーディネーターが中心となって近隣市町(3市2町)連絡会を年3回開催し、連絡調整を行った。
- ・令和8年度に運営団体となる「井原地域クラブ」設立に向けて準備会を立ち上げ、各クラブと協議を重ね立ち上げる運びとなっている。
- ・学校と地域クラブの連携の在り方等をコーディネーターが中心になって協議を進めた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・コーディネーターを中心に広域の連絡会を開催するなど連携に努めることができた。当初予定していた広域での地域クラブの広報紙制作は、地域展開の進捗状態の違いから今年度は断念することとなった。
- ・本年度は、実施主体となる各クラブの取りまとめを行う運営母体の整備に向けて各地域クラブと協議を行ってきた。また、市の認定制度も定まり認定クラブによる運営団体「井原地域クラブ」の令和8年4月初旬の立ち上げに向けて準備が整った。その結果、公的支援も少しずつ受けられる予定である。

●成果の評価

- ・目標の広域の地域クラブ広報紙は完成しなかったが、来年度に完成に向けての各市町の機運は高まっている。
- ・今まで単独で活動していた地域クラブをまとめる運営団体としての「井原地域クラブ」が立ち上がることによって、地域クラブの意見や要望を集約し、行政に伝えやすくなった。また、行政から公的支援も少しずつ行われる予定である。

●今後に向けて

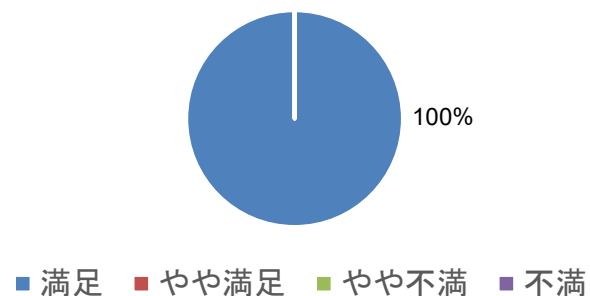
- ・8年度内は、「井原地域クラブ」の事務局を暫定的に教育委員会内におくことにしているが、9年度以降は独立した団体として整備していく予定である。
- ・現在の「井原地域クラブ」に所属するクラブだけでは、生徒の多様なニーズには応えられない。他のスポーツ団体等とも連携して、新規クラブを開設していきたい。

2.実証内容と成果②

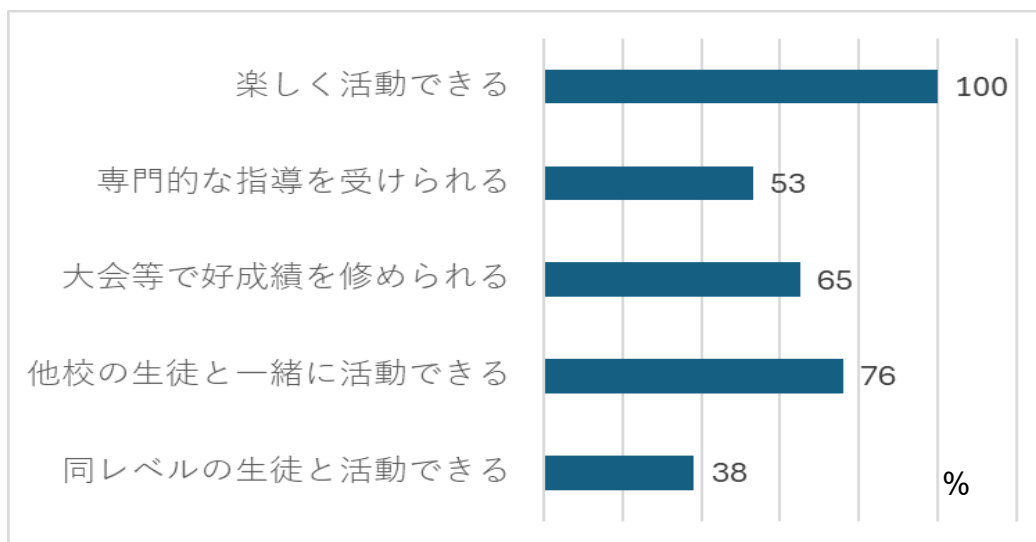
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果(野球・バレーボールクラブ参加者43人)

Q 地域クラブの活動に参加してどうか



Q 参加して良かったことは何か (複数回答可)



●参加者/関係者の声

生徒①

・小学校から競技していた種目が、自分の通学する学校になかったため、迷わず地域クラブに参加した。他校の生徒と楽しく活動ができるのが良かった。もっと一緒に練習したいと思っている。

生徒②

・コーチから専門的な指導を受けて、自分の上達の様子が実感できる。目標の全国大会の舞台にも立つことができている。

保護者①

・子どもの参加にあたって送迎等が不安だったが、同レベルの生徒と楽しく活動している我が子を見ると、クラブに参加させてもらってよかったと思っている。

指導者①

・子どもたちの楽しく活動している姿を見られることはとてもうれしい。ただ、活動するにあたりチームの練習グッズ等保護者負担となってしまう。行政等からの支援が欲しい。

2.実証内容と成果④

参考資料



【U-14クラブ選手権大会に参加】



【練習後、保護者が調理してくれた豚汁を食べる】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

協議会設置、
検討開始

受け皿団体の
募集や部活動
指導員の募集
を行う

令和5年

コーディネー
ターによる調整

既存クラブや
生徒、保護者へ
の説明

令和7年

各活動主体を組
織化し運営団体
を設立

令和8年

井原地域クラブ
活動の拡大

●ステークホルダー

・協議会には、スポーツ協会・文化協会・校長会・中体連・PTA・スポーツ少年団等の代表者が参加。

●経過

・全員が参加する全体会や実際に指導に当たっている担当者の会と年3回開催したが、教育委員会等への質問が多数で、具体的な地域移行に向けた案は出なかった。

●実施にあたって生じた課題

・国等の具体的な方針が示されていないことに苦慮した。

●ステークホルダー

・コーディネーターを中心にスポーツ少年団や退職教員等に中学生受け入れ可能なクラブを設立を依頼。

●経過

・既存の団体等を個別に回り地域移行の必要性を理解してもらうことで中学生の受け入れ可能団体を増やしていく。
・新規クラブ等の広報紙を制作し、中学生への情報提供を行う。

●実施にあたって生じた課題

・地元ケーブルテレビとタイアップして、地域クラブの紹介番組を流してもらう。

●ステークホルダー

・各地域クラブの代表者やスポーツ協会の代表者を交えてコーディネーターを中心に運営団体の設立を目指す。

●経過

・各地域クラブの代表者で構成する連絡会を開催し、運営主体となる組織を立ち上げることを確認。連絡会の一部代表者による準備会を立ち上げ、運営団体の活動内容・規約等必要事項の詳細を検討し、全体会で承認を受けた。

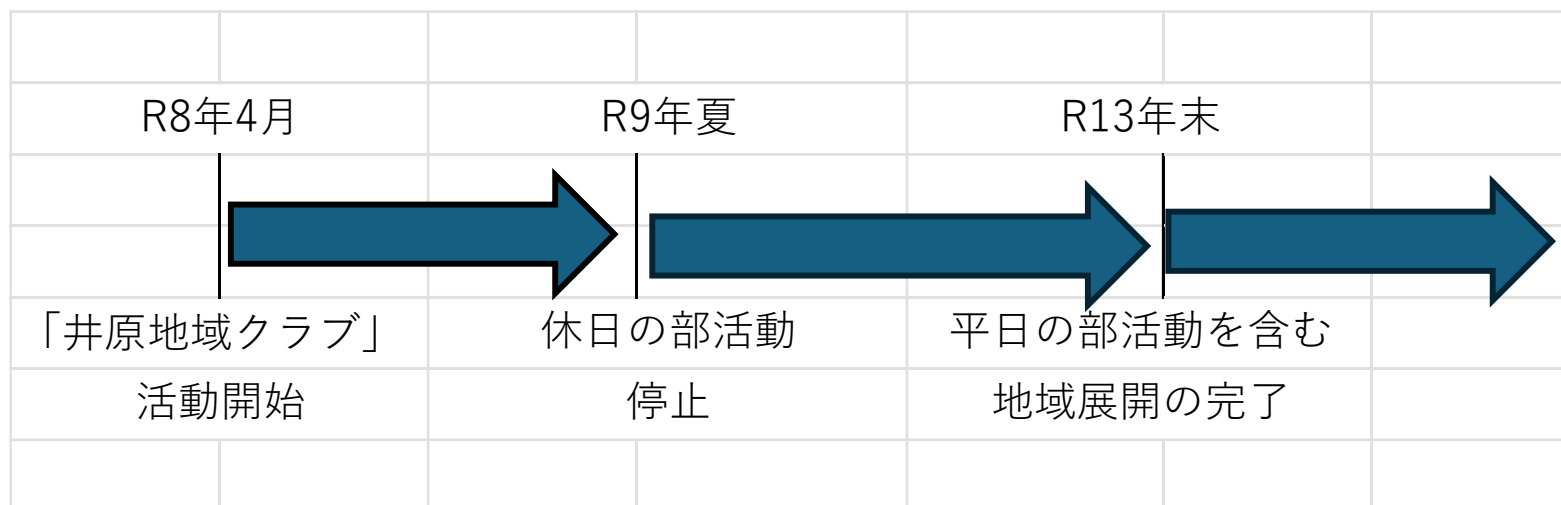
●実施にあたって生じた課題

・持続可能な地域クラブの運営を目指していくためには、行政等による公的支援が不可欠となる。

…枠・図等は
適宜追加

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

岡山県井原市

自治体名：岡山県井原市

担当課名：教育委員会文化スポーツ課

電話番号：0866-62-9533

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	243.54 km ²
人口	35866 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	800 人
部活動数 (文化部活動のみ)	9 部活
地域クラブ活動数	1 クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

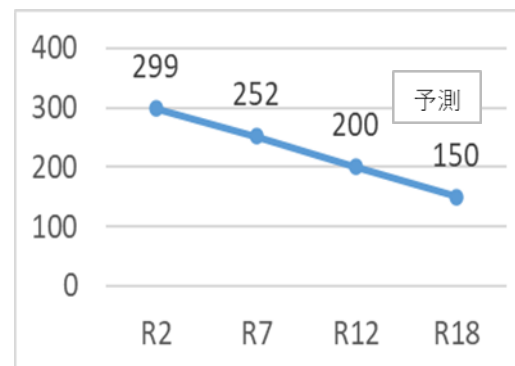
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

井原市では急速な少子化が進んでいる。それともなって各校では部活動の縮小傾向が続いている。特に文化部は顕著で、各校で選択可能な文化部は3~0となっており、文化部参加生徒の減少に拍車をかけている。そのため、以前から井原市では活動が活発だった各校の吹奏楽部も、単独ではコンクールに出場できない学校が増えてきている状況となっている。

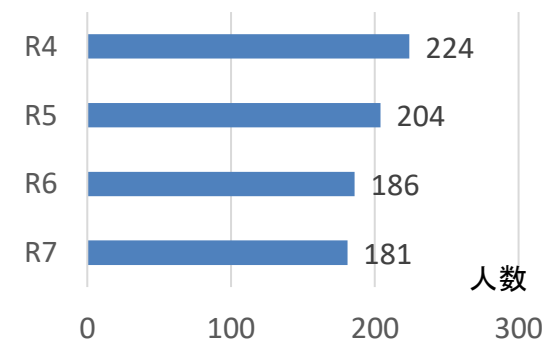
そのもう一つの大きな要因として考えられるのが、単独校で活動する場合にパートごとの専門的指導が難しいといった問題がある。そこで、井原市では市内の吹奏楽部を集め合同部活動を実施することにした。また、吹奏楽部がない学校や吹奏楽部に入っていない生徒も参加可能とするため、総合型地域クラブの中に吹奏楽のクラブも創設し、一緒に活動できる体制を整えていった。

しかし、練習場所・楽器の運搬等の課題も多数残っている。

【井原市の中学校入学者数】



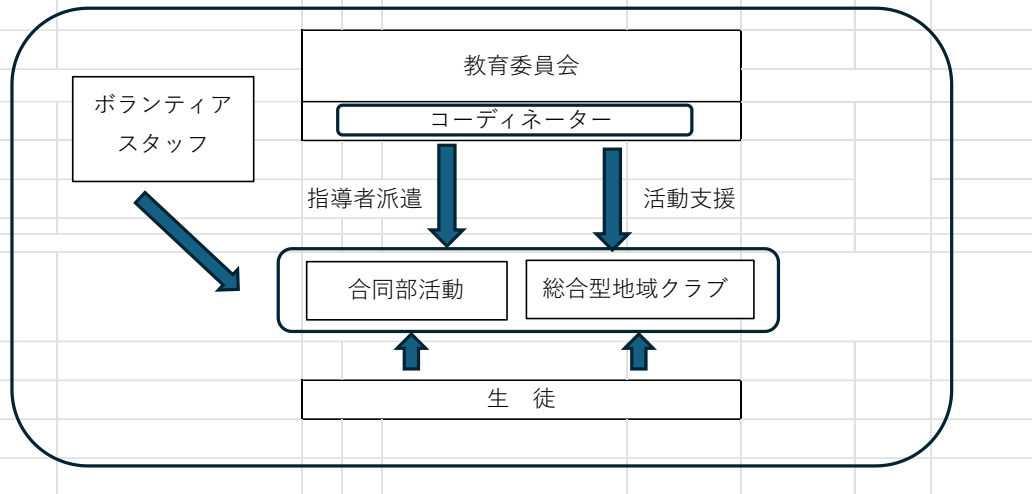
文化部参加人数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・部活動指導員の派遣

◎首長部局

◎コーディネーター

- ・各学校顧問との連絡調整

年間の事業スケジュール

- ・R7.4 今後の部活動地域展開活動計画の作成
部活動地域展開の小中学生向け啓発チラシを作成し配布
- ・R7.5 吹奏楽以外のクラブ立ち上げに向けて、文化協会～地元高校等との連携を模索
- ・R7.6 第1回3市2町広域連絡会開催
- ・R7.8 市内小中学生・保護者の意識調査のためのアンケート調査の実施・集計
- ・R7.10 第2回3市2町広域連絡会開催
- ・R8.1 井原市の地域展開に向けてのロードマップ作成。
各校校長・教職員や児童保護者に向けて広報活動始める。
地域クラブ連絡会で「井原地域クラブ」会則等を承認開設に向けての準備開始

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1 クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1 クラブ（0 部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0 クラブ	
全体の指導者数	10 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
吹奏楽クラブ	合同部活動・総合型地域クラブ	吹奏楽	・休日 1 回	9:00～ 12:00	3年 17人 2年 31人 1年 24人	R7.4～R8.3	10 人	4 人 (内、兼務 0 人)	0～ 6000 円 /年額 (など)	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

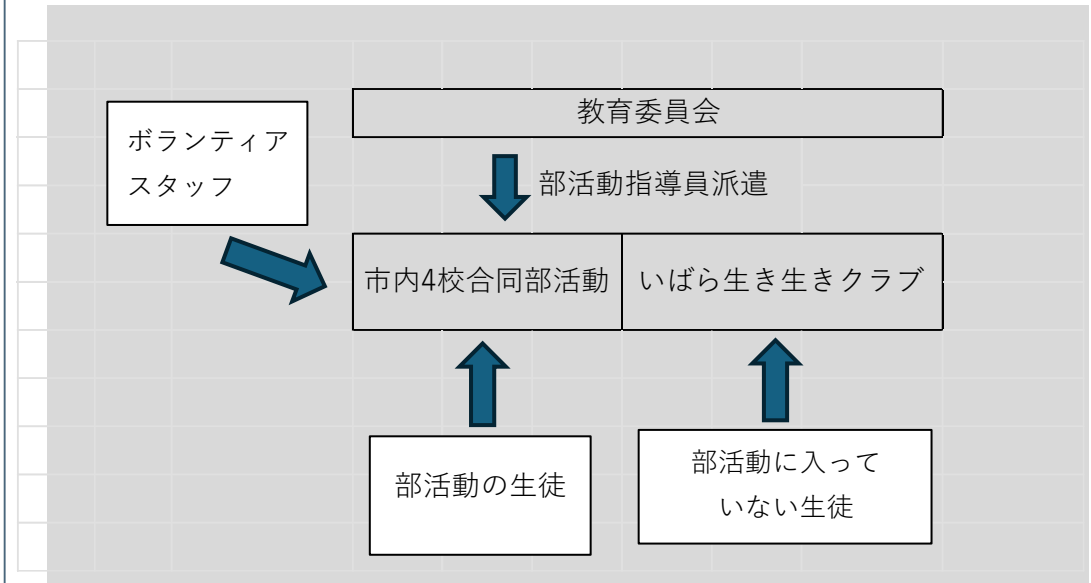
2.実証内容と成果

主な取組例

●吹奏楽クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	合同部活動
期間と日数	吹奏楽：月2回程度
指導者の主な属性	教員・地域ボランティア
活動場所	市内町学校
主な移動手段	保護者等送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	吹奏楽：0～6000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●教育委員会

役割：部活動指導員を派遣

●統括責任者

役割：各校顧問教師が協議して、練習日程・場所等を決定する。

●ボランティア指導者 10名

役割：各パートに分かれて練習する個別練習で指導する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・地域展開に関する情報が欲しいという要望に応えるため、コーディネーターが中心となって児童・生徒・保護者向けの説明会を行ったり、啓発チラシを配布したりした。また、学校関係者にも機会を見つけて説明を行った。
- ・子どもたちの多様化するニーズに応えるために、吹奏楽以外のクラブを活動を提供できないか、文化協会や高校等とも協議を行った。

取組の成果

- ・吹奏楽には、多くの生徒が参加するようようになった。また、指導するボランティアスタッフも多数協力してもらえるようになり、とても楽しく和やかな雰囲気の中で活動できている。

今後の取組における課題

- ・吹奏楽の活動には、合同演奏できる場所や大型楽器等の運搬が必要になってくる。現在は、市内中学校を巡回して練習しているが、一定の場所で、楽器等も保管できるスペースがある練習会場の確保が必要と考える。
- ・今後は、吹奏楽以外の選択可能なクラブも必要と考える。

課題への対応方針

- ・吹奏楽の活動場所については、教育委員会等が中心となって探していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各校の部活動担当者等と連絡を取りながら、活動を支援している。
- ・今後は、合同部活動から地域クラブへの転換に向けて関係機関と協議していく。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・文化部の中でもっとも多くの生徒が参加する吹奏楽について、部活動指導員を派遣し合同部活動を開催することで、多くの生徒に専門的指導を受けられる環境を整えていく。

・吹奏以外のコースも選択可能とするため、文化協会や地元高校とも協議していく。

・井原市では、開設できないコースは、近隣市町とタイアップすることで、選択可能なコースを増やしていけるように協議を進める。

●成果の評価

・今年度から吹奏楽の合同部活動始動することになり、多くの生徒が参加し、楽しく活動できるようになった。また、平日の各学校での練習も週末の合同演奏を念頭に置いた練習になっており、意欲的に集中して練習できるようになった等の声を聞くことができる。

・各校の部活動顧問も、部活動指導員による専門的な指導助言を受けることでモチベーションアップにつながっている。

●今後に向けて

・吹奏楽の練習環境の整備に取り組んでいく。

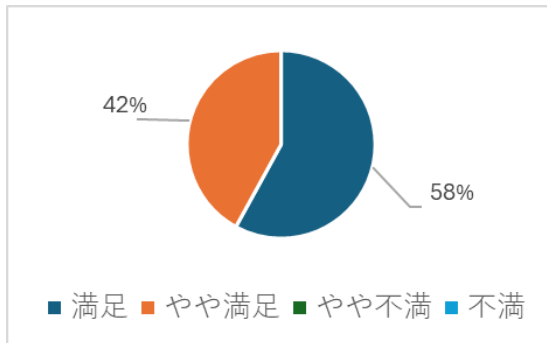
・吹奏楽以外の文化活動を選択できるようにする。

2.実証内容と成果②

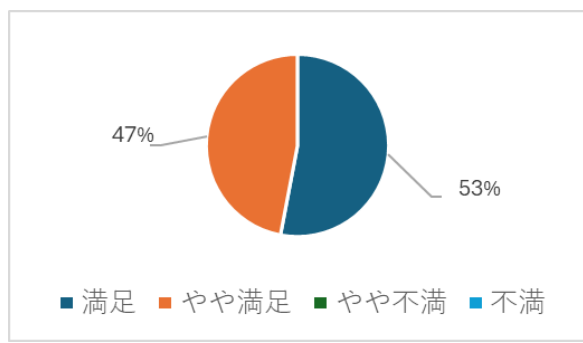
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

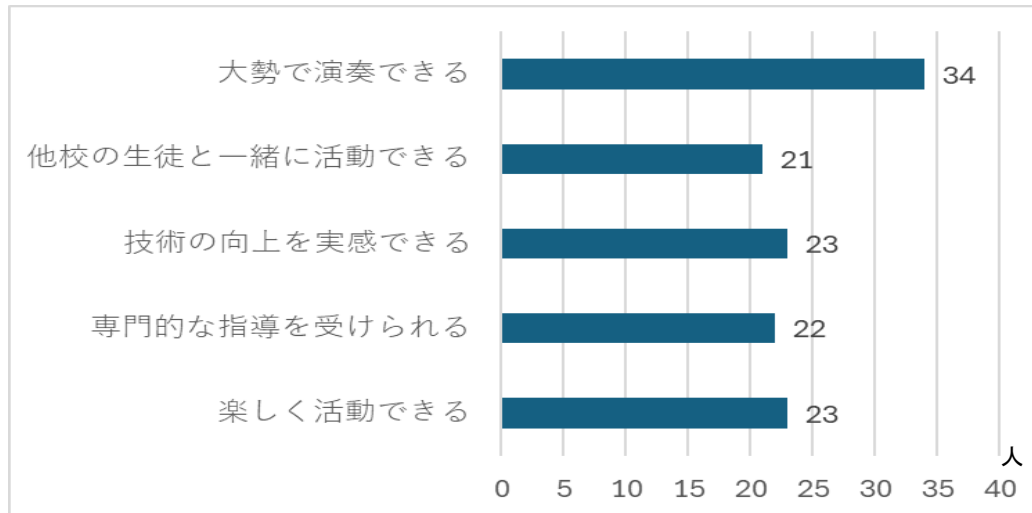
Q.現在の吹奏楽の活動に参加してどうですか(生徒参加者40人)



Q.現在の吹奏楽の活動に参加してどうですか(指導者13人)



Q.参加して良かったことは何ですか(生徒用 複数回答可 回答生徒40人)



●参加者/関係者の声

生徒①

たくさんの指導者がいて、それぞれパート担当がいるので、いろいろなことを教えてもらって自信がついた。大勢で演奏できて楽しかった。

生徒②

演奏会が近い時は、自分の中学校で自分たちの曲を練習したい。
毎回、楽器の持ち運びが負担である

指導者①

中学生の頑張る姿がうれしい。
合奏の前に、基礎的なことをもっと教えてあげたい。

指導者②

より専門的な指導を受けることができ、学校ではできないことが多いので、できることが増える。
発表する機会がもっとあれば良いと思う。

2.実証内容と成果③

参考資料



【練習最後はボランティアスタッフも一緒に全員合奏】

2.実証内容と成果④

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

吹奏楽
検討開始

令和7年

合同部活動に
向けて準備

合同部活動
開始

合同部活動
開始

令和8年

R吹奏楽以外の
クラブ設立準備

●ステークホルダー

教育委員会指導主事・コーディネーター・中学校部活担当者・地元高校部活動担当者・地元吹奏楽団代表者

●経過

各校の吹奏楽部も部員不足に直面しておりコンクール等への出場も難しくなってきた。そこで、市内の吹奏楽関係者等が集まって今後の対策等について協議を始めた。

●実施にあたって生じた課題

練習場所の確保、楽器の運搬、指導者不足等の問題点が上げられた。

●実施内容、工夫した点 等

当面4校の合同部活動として週末に練習することとした。その際、教育委員会から部活動指導員を派遣してもらおうとした。また、部活動のない学校の生徒のために総合型地域クラブ内に吹奏楽クラブを立ち上げ、一緒に活動することで市内の生徒が参加しやすくなった。

●経過

4月から最初は月1回のペースで活動を開始する。

その後、月2～3回程度に練習回数を増やしていった。

●実施にあたって生じた課題

開催場所は、各学校持ち回りとしたが、中にはセキュリティ等に課題を抱える学校もあり、公共施設の利用等が必要と考える。楽器の移動等も教員の車を使用するため負担となっている。

●実施内容、工夫した点 等

合同部活となったため参加人数が急増した。そのため、各パートに分かれての練習等で指導者不足が顕著になってきた。そこで、地元の吹奏楽団に協力要請を行い指導者の派遣をお願いした。その結果、毎回10人前後のボランティアスタッフが指導に来てくれた。

●実施に向けて

地元高校と連携して、高校生と中学生と一緒に活動する機会を模索していきたい。また、市内では開設が難しいものについては、他の市町村とも連携して開設していきたい。

…枠・図等は
適宜追加

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

